

プラチナ四半期レポート

2026年第2四半期

2026年9月9日

はじめに

今回の『プラチナ四半期レポート』の内容は、2026年第2四半期の需給動向と2026年の最新予測となる。プラチナ投資家に役立つ情報、注目すべき動向とそれに対する我々WPICの見解、さらに我々のプロダクトパートナー各社の最新情報も取り上げた。本稿5ページからのデータおよび分析はメタルズフォーカスがWPICのために独自に作成したものである。

当初は4年連続で供給不足になる予測だったプラチナ市場は、第1四半期に続き第2四半期も供給過剰になるため、2026年全体ではわずかな供給過剰になる予測に変わった。第2四半期を通じて投資需要がマイナスになり、宝飾品需要、特に中国の需要が減り、安定していた自動車と工業需要の足を引っ張る形となった。

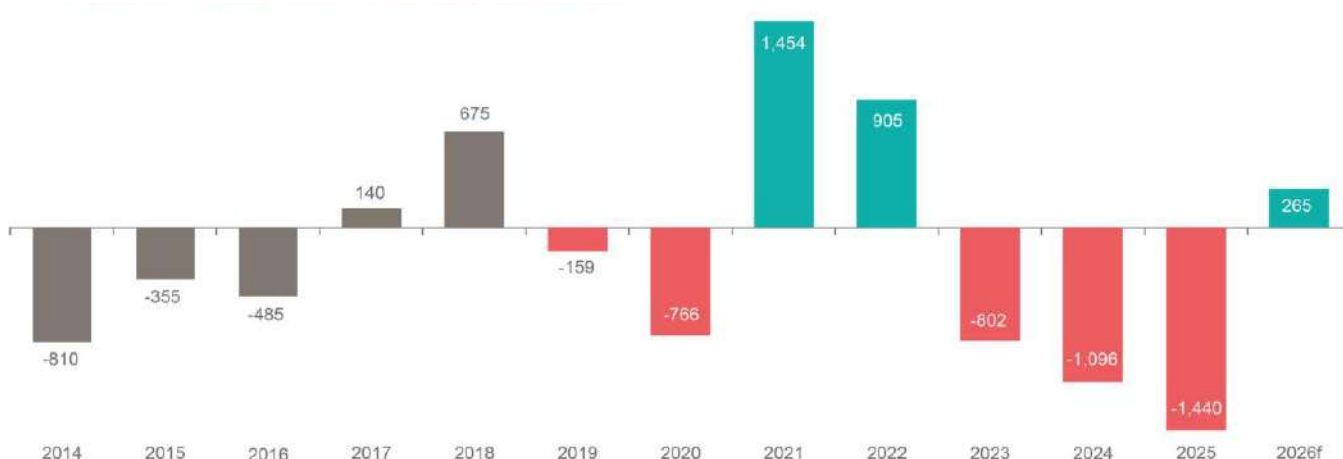
2026年第2四半期のプラチナ市場は供給過剰

- 第2四半期のプラチナ総供給は前年同期比で1%増えて59.3トンとなった。リサイクル供給が9%増え、2%減った鉱山供給を補った。
- 第2四半期のプラチナ総需要は前年同期比で16%減って51.7トン。投資需要の純減が3.8トン、宝飾品需要は高価格で需要が減ったのと中国の昨年同期の需要が多かったため比較で6.7トン減った。
- これらの結果、第2四半期のプラチナ市場は7.6トンの供給過剰となった。上半期は17.0トンの供給過剰、下半期は8.8トンの供給不足になる予測。

2023年から2025年の大幅な供給不足を経て、2026年のプラチナ市場はわずかな供給過剰に

- 2026年のリサイクル供給の予測は下方修正となり、前年比で8%増の56.01トン。鉱山供給は平年並みだが、リサイクルが増えるおかげで全体の供給は前年比2%(+3.8トン)増え、228.7トンになる予測。
- 前回『プラチナ四半期レポート』での2026年のプラチナ需要予測は238.7トンだったが、投資需要が18.7トン減って純減2.6トンとなったため、需要は220.5トン(前年比-18%)に下方修正した。
- 2026年のプラチナ市場は、下半期に予測されるETFの伸びが上半期の供給過剰を吸収しきれず、8.2トンの供給過剰になる予測。

2014年～2026年（予測）の年間のプラチナ需給バランス(koz)



出典：2014年から2018年はSFA（オックスフォード）、2019年から2026年予測はメタルズフォーカス

プラチナ投資 – マクロ経済指標が市場の話題の中心も、価格は2023年～2025年の供給不足による市場の逼迫を反映

2026年上半年にプラチナおよび貴金属市場全般が低迷した背景にはマクロ経済の情勢があった。米国とイランの衝突、それに伴うホルムス海峡の通航制限はエネルギー価格を大きく押し上げ、予測されたほどではないにしろ第2四半期のインフレ指標と下半期のインフレ予想を引き上げた。その結果、金利上昇予測が高まり、金利を生まない貴金属に対する投資意欲に水を差す形となった。

マクロ経済が主導するこのセンチメントは、主にETFの売却やインゴット・コインの需要減少としてプラチナ市場に現れ、上半期のETF保有高は2025年末時点の保有高の約7分の1に相当する15.6トン減った。一方で、米通商拡大法232条に基づく調査が完了し、重要鉱物の供給に関する交渉を目指す米国の動向が貿易摩擦に一定の緩和をもたらし、取引所在庫は2.0トン減少した。このようにプラチナ市場の現物が増え、上半期のプラチナ価格は24%下落(2026年1月下旬につけた年初の高値、2875ドル/オンスからは46%の下落)し、10%を超えていたプラチナリースレートは5%を切った。

ここで一つ注意点だが、我々の新たな予測、供給過剰8.2トンという数字には、上半期の17.0トンの供給過剰(実質的にはETFの売却と取引所在庫の流出)と、下半期の8.8トンの供給不足の両方が含まれることだ。上半期のETF売却と取引所在庫から流出した現物は6ヶ月間の需要の19%に相当し、それが現在約2%で推移するリースレートの安定に寄与した。しかし、下半期の予測は供給不足であることから、プラチナ価格とリースレートは上がる可能性がある。

膨張する国家の借金と財政予算の拡大を受け、投資家はインフレとドル安のヘッジとなる現物資産に向かう。いうまでもなくゴールドがディベースメントトレードを牽引しているが、数年の間供給不足が続き、良好な需給ファンダメンタルズを持つプラチナはゴールドに対するベータ値が高く、代わりともなる投資資産である。上半期はプラチナ市場から投資資金が流出したが、下半期は円買い介入や米国債の買い戻し拡大などでディベースメントトレードが盛んになり投資需要は回復するだろう。さらに、今のところ、エネルギー価格が上昇しても、それが持続的なインフレ圧力を引き起こしていないように見えることや、米国と中国の経済の軟化を示す指標があることなどから、利上げ回数は想定ほど多くなく、それも下半期のプラチナ需要投資を後押しする可能性が高い。マクロ経済指標は今後もしばらくはプラチナ価格を左右することになるだろうが、2023年から2025年の大幅な供給不足で現物市場は逼迫しており、プラチナはゴールドに対するベータ値の高い資産として機能している。

上半期の投資以外の需要を見てみよう。イラン戦争の影響で石油・化学分野ではメンテナンス作業が延期され、補充用プラチナ触媒の需要が減ったが、それ以外の分野のプラチナ需要にはまだ深刻な影響が生じておらず、むしろそれよりも中国の国内経済不振の影響の方が大きい。上半期は宝飾品と大型インゴットを含む投資用インゴットとコインの需要はそれぞれ前年比で65%と36%も減った。中国が2026年々の普通乗用車と小型商用車(LDV)の生産予測を190万台減らし、その影響も多少あったが、これはEV生産に偏っているためエンジン車とハイブリッド車の生産への影響は抑えられた。

明るいニュースとしては、AIがプラチナ及びPGM全般の新たな需要分野として台頭していることだ。プラチナはハードディスクドライブや先端半導体の製造に使われている以外にも、プリント基板の低誘電ガラスクロス、光インターコネクト用の結晶の製造にも使われている。2026年のプラチナの電子材とガラス分野の需要は前年比でそれぞれ19%と23%増える予測だ。

AIインフラの普及や防衛分野の利用を支えるPGMの役割は、投資環境として2025年以降から多く取り上げられるようになったテーマ、つまり画一的なグローバル化から多極化へと世界が変化していることを裏付けるものだ。貿易政策、テクノロジー、コモディティーは今や特定地域の戦略を進めるための道具として機能するようになった。中国によるレアアースの輸出規制、イランによるホルムズ海峡封鎖などは、政治の動きがコモディティーに影響を与える好例だ。各国政府は国内供給網の再構築あるいは戦略的備蓄によってリスク回避を目指すようになる。PGMは供給地域が偏っていることや高い付加価値をもつことから多くの国で重要鉱物のリストに含まれ、需要ギリギリの水準の在庫維持は高いリスクを伴うという認識が広がっている。

下半期は投資需要が回復し、プラチナの需要は前年同期比で24%増えて122.3トンになる予測。プラチナの高価格はリサイクル供給を牽引していたが、その伸びも鈍化し、鉱山生産はメンテナンス中の操業が停止する期間が増えて減産になるため全体では横ばいの予測だ。2026年全体のプラチナ市場は8.2トンの供給過剰になる予測だが、下半期は一転して8.8トンの不足になる予測だ。5ヶ月間連続で売り越しが続いたETFの売却は6月で終わり、7月の残高は純増に転じたの、金利上昇予測が弱まってプラチナを含む貴金属全体に対するセンチメントが改善したためと考えられる。

プラチナの供給と需要

貴金属市場からの資金引き上げ続く

第2四半期のプラチナ市場は 7.6 トンの供給過剰。上半期は 17.0 トン の過剰、下半期は 8.8 トンの不足となる予測。

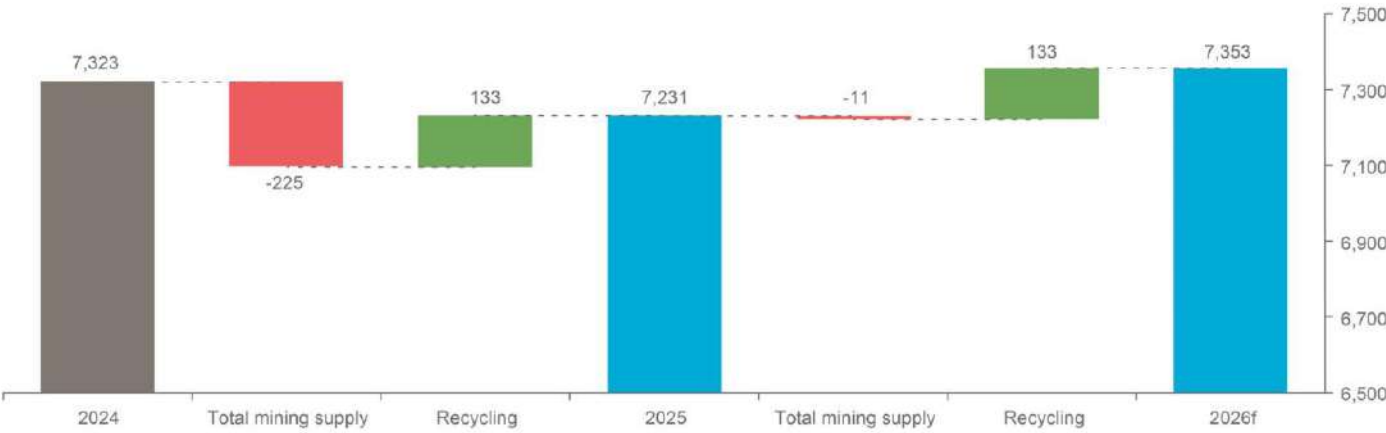
第2四半期のプラチナ市場を押し下げたのはなんといっても投資需要だった。投資需要はマイナス 3.8 トンで、これはETF の純減が 7.3 トン、インゴットとコインの需要が前年同期比で 71% 減ったためだ。我々の需給データに含めるようになったGFEX の在庫のおかげで、減り続けている NYMEX 在庫を一部補うことができた。宝飾品需要は前年同期比でマイナス 32% だが、これは前年同期に中国の需要が爆発的に増えたことも一因だ。工業需要は前年同期比で 6% 増え、低迷した自動車需要を相殺した。

供給では南アフリカとジンバブエの増産がロシアと北米の減産を補ったものの、前年同期比で 2% 減って 44.8 トンだった。リサイクルは過去3年間で上がったPGM価格のおかげでスクラップが放出されて廃触媒のリサイクルが増え、前年同期比で 9% 増えて 14.5 トンだった。

2023 年から 2025年の大幅な供給不足を経て、2026年のプラチナ市場はわずかな供給過剰に

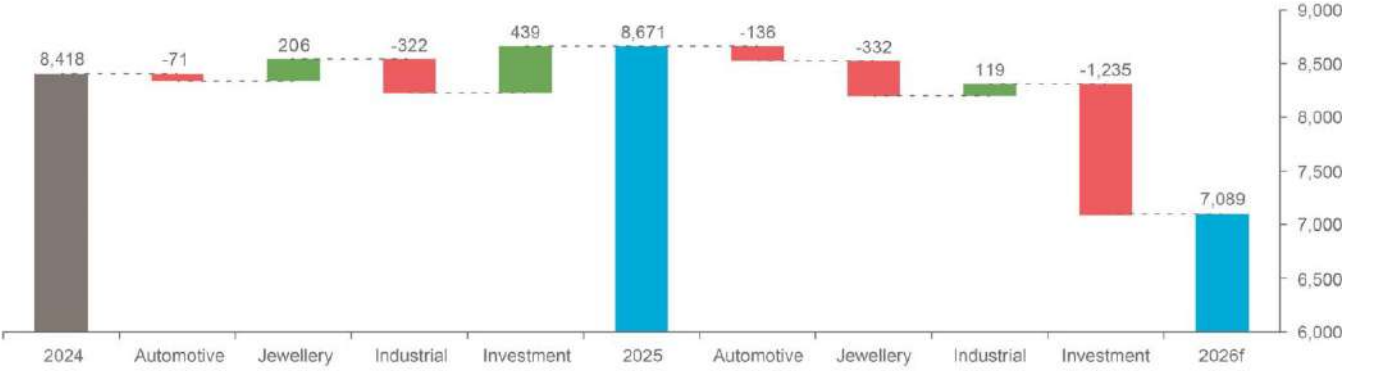
2026年のプラチナ市場は、 前回の『プラチナ四半期レポート』の予測を大きく塗り替えて、8.2 トンの供給過剰になる予測（これまでは 9.2 トンの供給不足）。この修正の原因はひとえに投資需要が 18.7 トン減る予測に基づく。

2024年から2026年(予測)の年間供給の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

2024年から2026年(予測)の年間需要の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

2026年のプラチナ投資需要は、利益確定売りや利上げ予測による貴金属離れなどから、マイナス 2.6トンになる予測で、宝飾品需要もメタル価格の上昇や中国の国内消費の落ち込みで前年比マイナス 55% となる予測。工業需要は 5% 増加し、4% 減の自動車需要を補うだろう。

2026年の供給は、前年比 8% 増のリサイクル供給が支えとなって 2% 増の 228.7トンの予測。南アフリカの増産が他の地域の減産を補って鉱山生産量は前年並みになる予測。

WPIC 活動のハイライト

我々はプラチナ投資の促進に最も適した戦略を立てるため、世界にネットワークが広がるプロダクトパートナー各社との協力を続けている。マクロ経済環境の影響を受け、パートナー各社の第2四半期の販売実績は第1四半期を下回った。

第2四半期の欧州及び北米のプロダクトパートナー各社では、ゴールド、シルバー、プラチナの現物投資商品の販売が大きく減退した。この主な原因は1月の高値からの価格下落だが、戦争によるインフレや金利上昇に対する懸念もあった。それでもプラチナ投資商品に対する需要は堅調で、投資家からの売り戻しや新たに製造された商品で需要を満たすことができた。しかし、第2四半期半ばからは買い戻しが減り、高い水準のままで変動も大きいプラチナリースレートの影響で新たな製造商品が減ってしまった。とはいえプラチナ投資に対する関心は高く、1オンス以下の商品など新しいプラチナ投資商品の開発のためにパートナー各社は我々のデータやリサーチレポートの活用を一段と進めている。

第2四半期の中国のプラチナ投資需要は、比較的高値圏でも購入していた投資家が、地金価格の下落で様子見に転じたことや、消費者センチメントの悪化、昨年導入された新たな VAT 制度が貴金属購入に影響し、前年同期比で 10% 減った。しかし、昨年から急速に高まったプラチナ投資に対する関心が薄れたわけではなく、中国のゴールド市場では大手の北京菜市口百貨(Beijing Caishikou Department Store Co. Ltd) と中国印鑄造幣集団(CBPM)傘下の長城貴金属(Great Wall Precious Metals Co. Ltd.)という強力な2社を我々のパートナーに加えることができた。

上海プラチナウィーク 2026 は、世界 19 の国や地域から 400 社以上、700名以上の参加者を集めて7月に開催され、PGM 業界に大きなインパクトを与えた。会場では鉱山産業からリサイクル、中国の巨大な AI インフラ、先端産業に至るまでプラチナの利用と最新の市場動向、新たなビジネスチャンスなどを中心に貴重な意見交換が活発に行われた。来年の上海プラチナウィーク 2027は、7月5日から9日にかけて開催されることが決定している。

シンガポールでは SBMA とともに、6月に開かれた Asia Pacific Precious Metals Conference (APPMC) に協力した。この会議には海外からの参加者も多く、アジア地域の貴金属投資家の高い関心が伺えた。WPIC はPGMに関するパネルディスカッションを主催し、アジア市場における動向と新たなビジネスチャンスの発掘について議論を交わした。

プラチナのリースレートはここ数週間横ばいで推移しており、8月の価格上昇とともに新たなプラチナ商品の製造に関心が高まっている。今年残りの期間の投資商品の販売に期待が持てる。

CEO トレバー・レイモンド

目次		2026 年の展望	12
はじめに	1	詳細データ	19
要約データ (koz)	5	用語集	25
2026 年第2四半期レビュー	6	著作権と免責事項	29

PLATINUM QUARTERLY Q2 2026

表 1 : 供給、需要、地上在庫のまとめ (トン表示は24ページの表7を参照)

	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q1 2026	Q2 2026
Platinum Supply-demand Balance (koz)									
SUPPLY									
Refined Production	5,523	5,606	5,777	5,557	5,551	-4%	0%	1,329	1,474
South Africa	3,915	3,957	4,133	3,957	4,005	-4%	1%	1,014	1,082
Zimbabwe	480	507	512	515	508	1%	-1%	90	152
North America	265	278	265	212	201	-20%	-5%	47	47
Russia	663	674	677	677	646	0%	-5%	136	148
Other	200	190	191	196	192	3%	-2%	41	47
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+45	+14	+10	+4	+0	-57%	-100%	+11	-34
Total Mining Supply	5,568	5,620	5,787	5,561	5,551	-4%	0%	1,340	1,441
Recycling	1,811	1,515	1,536	1,669	1,802	9%	8%	459	466
Autocatalyst	1,370	1,114	1,163	1,232	1,422	6%	15%	354	374
Jewellery	372	331	298	356	293	20%	-18%	84	68
Industrial	69	71	76	81	88	7%	8%	21	23
Total Supply	7,378	7,135	7,323	7,231	7,353	-1%	2%	1,799	1,906
DEMAND									
Automotive	2,769	3,206	3,110	3,039	2,904	-2%	-4%	735	729
Autocatalyst	2,769	3,206	3,110	3,039	2,904	-2%	-4%	735	729
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A	†	†
Jewellery	1,880	1,849	2,008	2,214	1,883	10%	-15%	461	456
Industrial	2,328	2,493	2,588	2,266	2,385	-12%	5%	570	600
Chemical	690	829	645	563	613	-13%	9%	135	138
Petroleum	193	160	159	182	132	14%	-28%	33	31
Electrical	106	89	93	99	118	6%	19%	27	29
Glass	475	491	739	430	528	-42%	23%	129	156
Medical	278	292	308	321	332	4%	4%	78	81
Hydrogen Stationary and Other	14	23	40	71	77	77%	8%	20	19
Other	572	609	603	600	586	0%	-2%	147	145
Investment	-504	388	713	1,152	-83	62%	N/A	-270	-121
Change in Bars, Coins	273	314	205	402	313	96%	-22%	105	37
China Bars ≥ 500g	90	134	162	165	106	2%	-36%	44	21
Change in ETF Holdings	-559	-74	296	200	-389	-32%	N/A	-300	-234
Change in Stocks Held by Exchanges	-307	14	50	384	-112	>±300%	N/A	-119	54
Total Demand	6,473	7,937	8,418	8,671	7,089	3%	-18%	1,495	1,663
Balance	905	-802	-1,096	-1,440	265	N/A	N/A	304	244
Above Ground Stocks	5,084**	4,281	3,186	1,745	2,010	-45%	15%		

出典: メタルズフォーカス (2022年から2026年予測)

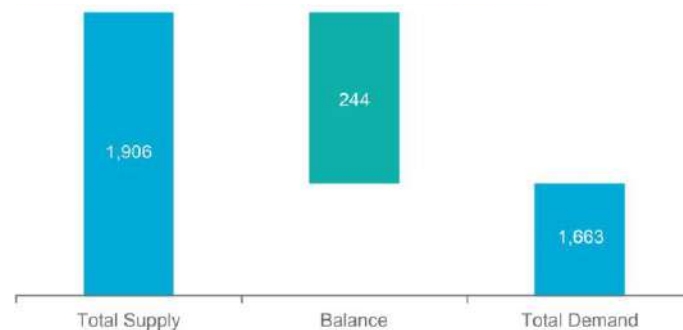
注:

1. 地上在庫: ***113.5トン 2018年12月31日時点 (メタルズフォーカス)
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPIC は2013年、および2014年第1四半期および同年第2四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2022年第2四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはWPICウェブサイト参照 (無料)。
5. 2024年第3四半期以降の四半期予測と2024年上半年期以降の6ヶ月予測は、20ページの表3と21ページの表4にそれぞれ含まれている (供給、需要、地上在庫)。
6. 23ページの表6の地域毎のリサイクル供給の詳細データは2019年からのものによる。

2026 年第 2 四半期のマーケットレビュー

第 2 四半期はマクロ経済環境の悪化と地政学リスクの高まりの中で過ぎた。中東紛争による混乱はエネルギー、石油精製、石油化学市場などに及んだ。エネルギー価格の上昇でインフレ懸念と金利政策に制約が生じる中、メタル価格が下落して貴金属投資に対するセンチメントも弱まり、その結果大量の ETF が売却されて、インゴットとコインの需要も急減した。その一方で、AI やデータセンター、先端電子材への投資は続き、関連産業分野を支えた。こうした背景のもと、第 2 四半期のプラチナ市場は前年同期の 2.4 トンという供給不足に対して今年の第 2 四半期は 7.6 トンの供給過剰となった。供給は前年同期比でほぼ横ばいの 59.3 トン、需要は 16% 減って 51.7 トンだった。自動車と宝飾品の需要が減退し、投資需要もマイナスとなって、工業需要の増加を相殺した。

チャート 1：2026 年第 2 四半期の需要供給バランス (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

供給

第 2 四半期の世界の精錬プラチナ供給は、南アフリカとジンバブエの増産がロシアと北米の減産を十分補い、前年同期比で 2% 増えて 45.8 トンだった。

南アフリカの生産は前年同期比で 4% 増えて 56.0 トンだった。主に生産量を押し上げたのは Valterra Platinum の増産だったが、Northam と Implats でも増えた。Valterra Platinum では 2025 年に洪水の被害を受けた Amandelbult 鉱山が回復して自社採掘の精錬量が増え、他社から購入する精鉱の減少を補って全体の精錬量が増加した。また仕掛かり在庫の処理が続いたために 5 四半期連続で精錬加工量が採掘量を上回った。Implats でも加工設備の改善によって仕掛かり在庫の処理が進んだ。Northam では Booyseendal と Eland 鉱山の生産が増え、外部からの精鉱調達で精錬量が嵩上げされた。Platreef のフェーズ 1 選鉱工場では低品位鉱石の処理が続き、生産量は前期と比べてもそれほど増えなかった。今年半ばから始まる予定だった商業生産は、材料処理能力の問題に対処するために 2026 年第 4 四半期まで延期された。

ジンバブエの生産は前年同期比で 11% 増え、四半期としては過去最高の 4.7 トンだった。Zimplats で第 1 四半期の溶鉱炉メンテナンスに伴って蓄積した仕掛かり在庫 0.90 トンを一括処理したからで、3 月に再開された溶鉱炉の精錬能力は 14% 増えた。そのほか Unki 鉱山が増産となったが、Mimosa の生産は断続的な停電の影響を受けた。

ロシアの生産は前年同期比で 6% 減って 4.6 トンだった。ノリリスクニッケルの生産は Nadezhda 溶鉱炉のメンテナンス、仕掛かり在庫の蓄積、長期にわたる PGM 鉱石の品位低下などの影響を受けた。

北米の生産は前年同期比で 19% 減って 1.46 トンになる予測で、これは主にカナダの鉱山の副産物減産による。Vale では Sudbury 鉱山の工場でのメンテナンスと、春季の雪解けで通常以上の量の水が坑内に流れ込んだため生産に支障をきたした。

リサイクル

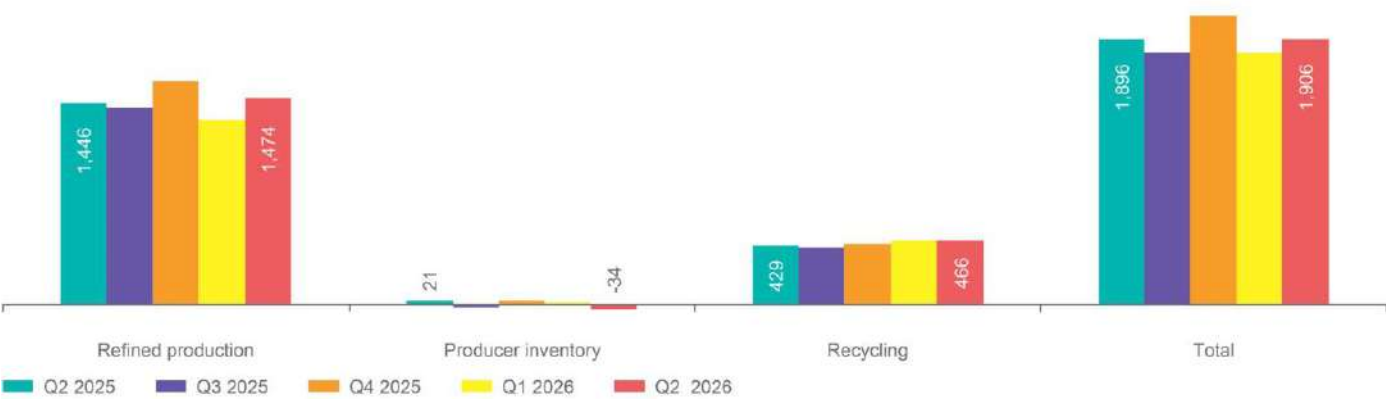
第2四半期のリサイクルによる世界のプラチナの供給は前年同期比で 9% 増えて 14.5トンだった。廃触媒と工業部品のリサイクルが増加し、急減した宝飾品スクラップの分を補うことができた。廃触媒のリサイクルは 17% 増えて 11.6トン、宝飾品スクラップは 24% 減って 2.1トン、電子材スクラップが大半の工業部品のリサイクルは 16% 増えて 0.71トンだった。

廃触媒のリサイクルが増えたのは高いメタル価格が大きな要因だ。前年同期と比較して PGM 価格が上がって廃材回収の収益性が向上し、溜め込まれていた資材が処理に回された。特に顕著だったのが北米で、新車販売台数がそれほど増えなかったにも関わらず、廃触媒の回収は大きく増えた。欧州では新車市場が好調で車両の買い替えや廃車が増えたほか、一部の排ガス処理システムがリコール対象となったこともリサイクル量を押し上げた。中東の紛争による物流の混乱で、通常ならば UAE で前処理される資材が欧州域内で処理されるようになったこともある。しかし、回収された中身を見ると、増えているのは主に古い年式の車両の触媒装置で、世界的に見てもPGM 使用量が少ない古い年式の触媒装置のリサイクルが増えて、回収できるメタルの量は廃触媒触の数ほど増えていないのが実情だ。これは年式の古い車両の廃車が増えていることに加え、低品位の触媒装置でも採算が取れるだけメタル価格が上がったことなどが背景にある。

宝飾品のリサイクルは特に中国で激減し、世界では前年同期比マイナス 24% の 2.1トンだった。中国国内のプラチナ宝飾品スクラップは前年同期比でマイナス40%、前期比ではマイナス30% だった。プラチナ価格が上がらなかったことや宝飾品需要の低迷が響いてリサイクル量が減った。多くのショールームやメーカーがプラチナ商品からゴールドにシフトしてもプラチナ商品の売れ残り在庫をリサイクルに出していない。これは、2025年第3四半期～第4四半期はプラチナ価格が高騰したために、業者が売れ残りのプラチナ商品を積極的にスクラップに出していたのと対照的と言える。中国以外の地域でのプラチナ宝飾品リサイクルは安定していた。

工業部品のリサイクルは電子材スクラップの増加で前年同期比 16% 増の 0.71トンだった。目立ったのは IT 関連で、2020年～2022年のクラウドコンピューティング成長期に設置されたサーバーやデータストレージ関連機器が更新時期に入り、大量に廃棄されたためだ。またAI インフラへの投資が急に増え、限られた電力、冷却能力、物理的なスペースをより最新の強力なハードウェアに使うために、データセンター業者の間で既存のサーバーを入れ替える動きが加速している。

チャート 2：プラチナ供給 (koz)

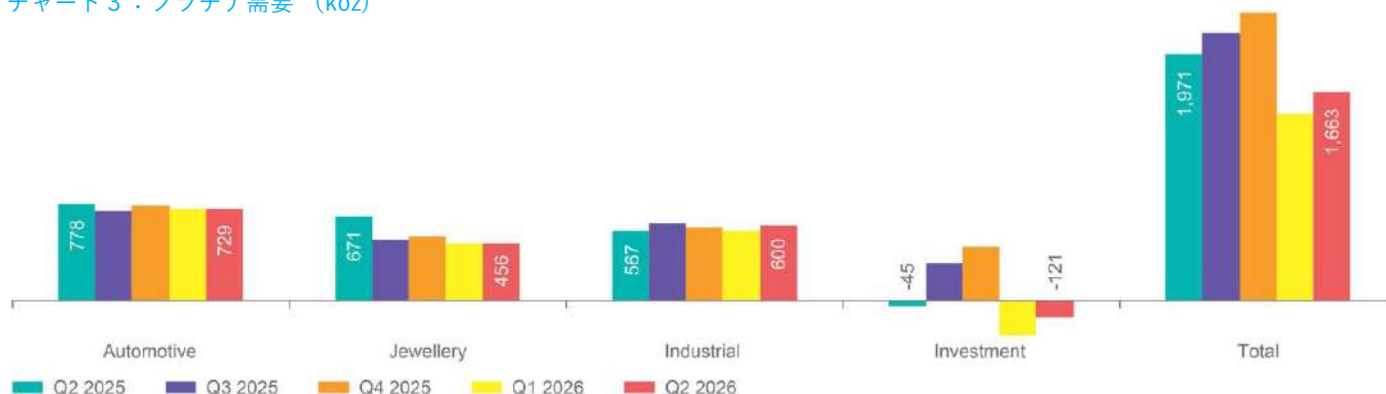


出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

需要

第2四半期のプラチナ需要は前年同期比で 16% 減って 51.7トンになった。宝飾品需要が中国の不振を受けて急減し、自動車需要も弱かった。投資需要は ETF の売り越しが主因でマイナスから抜けられなかったが、6% 増えて 18.7トンになった工業需要で、減った分が一部補われた。

チャート 3：プラチナ需要 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

自動車需要

第2四半期の自動車のプラチナ需要は、普通乗用車と小型商用車(LDV)のパワートレイン構成がエンジン車(ICE) から、ハイブリッド車やバッテリー電気自動車(BEV)にシフトしている流れを反映し、前年同期比で 6% 減 (-1.52トン) の 22.7トンだったが、地域別の傾向は様ではない。米国と中国は政策に強く影響され、イラン戦争によるエネルギー市場の不透明感も消費者のパワートレイン選考に影響している。

欧州の自動車のプラチナ需要は前年同期比で 9% 減り (-0.68トン) 7.1 トンだった。LDVの生産ではエンジン車の生産が 23% 減って中国から輸入される新エネルギー車(NEV)が増加した。ハイブリッド車と BEV の生産も順調に伸びており、欧州市場が電動パワートレインに転換しつつあるのは明らかだ。大型輸送車(HDV) の生産も軟化し、触媒装置搭載車の減産と BEV の増産がプラチナ需要を抑えた。

北米の自動車のプラチナ需要は前年同期比横ばいで 3.8トンだったが、前期比では 20% (+0.65トン) 回復した。LDV の生産はエンジン車とハイブリッド車の増産のおかげで全体でわずかに増加、BEV 生産は前年同期比マイナス19% だった。HDV 生産はエンジン車、BEVともに増産。

日本の自動車のプラチナ需要は前年同期比で 14% 減り (-0.31トン) 1.9トンだった。LDV 全般の生産は微増も、パワートレイン構成としては、エンジン車からハイブリッド車とBEV へのシフトが続き、ハイブリッド車の伸びもエンジン車の低迷を補うことはできなかった。HDV の生産ではエンジン車が減り BEV が2倍以上に増えた。

中国の自動車のプラチナ需要は前年同期比で 11% 減り (-0.46トン) 3.5トンだった。LDV 生産は前期比では回復したが前年を下回り、特にエンジン車生産が 22% 減ったために触媒装置搭載車も影響を受けた。BEV とハイブリッド車の生産は、新エネルギー車優遇策の変更に伴って国内需要が減ったが、輸出は好調だった。HDV の生産は、触媒搭載車の生産が順調で LDV の低迷を補ったが、HDV の燃料電池車は減少した。

その他の地域の自動車のプラチナ需要は前年同期比で 1% 減って (-62.2 kg) 6.3トンだった。LDV の BEV とハイブリッド車生産が増えたが、エンジン車は減り、プラチナ需要を抑えた。HDV ではインドが伸びたが他の地域のエンジン車の減産を補えず、BEV のシェアが伸び続けている。

宝飾品需要

第2四半期の世界のプラチナ宝飾品製造は急減して 14.2トン となり、前年同期比で約 32% ものマイナスとなった。極端な落ち込みは中国、そして程度は小さいが日本に集中しており、全世界で一様に急減したわけではない。

欧州のプラチナ宝飾品製造は前年同期比で 4% 減った。5期連続で増加していたが、スイス製高級プラチナ腕時計の品位証明刻印受付数が 26% 減り、ゴールド腕時計のそれも 28%減った。しかし、プラチナの場合は昨年5月の受付数が通常の2倍以上あったことも影響している。

これは、昨年4月2日のトランプ大統領の関税発表を受け、それを見越した前倒し需要によってスイスから米国への時計輸出が2倍以上にも増えたことが背景にある。その他の地域では、ドイツやフランスは堅調、イギリスとイタリアは不振だった。一つ朗報としては、高級宝飾品市場でPt600(プラチナ純度60%)への関心が高まっていることがある。このプラチナ合金が一般大衆向け商品市場にも広まれば、従来のPt950(プラチナ純度95%)商品の市場を超えて、ホワイトゴールドよりも手頃な価格で入手できるプラチナ宝飾品として、多くの消費者に受け入れられるようになるかもしれない。

北米のプラチナ宝飾品製造は前年同期比で 5% 伸びる予測で、低調だった前期から回復できるだろう。重量ベースで見ると消費者向け販売高は推定 1% 増加、輸出では輸出額自体は伸びたが重量では 33% 減った。メタル価格の上昇に対応するために業界は商品の軽量化を進めているが、依然としてゴールドに対するプラチナ価格は割安感が大きいと、ホワイトゴールドからプラチナへのシフトが今後も続くだろう。

中国のプラチナ宝飾品製造は前年同期比でマイナス 76%、前期比ではマイナス 17% と大きく減った。この第2四半期期は我々のデータの中でも最も低い水準となった。前年比で減少が大きいのは2025年の水準が例外的に高かったためで、当時は業界全体でプラチナ価格上昇への期待が高まり在庫構築が盛んになった。

中国の宝飾品市場では全般的に消費者センチメントが落ち込み、ゴールド商品との競争も激化した。メーカーはゴールド宝飾品の商品開発を進めたり積極的な販促を展開したりしたため、業界全体の在庫がプラチナからゴールドにシフトし、大手メーカー全てでプラチナ需要が大きく減退した。

日本のプラチナ宝飾品製造は前年同期比で 25% 減ったが、これはプラチナおよび貴金属宝飾品全般に対する消費者センチメントが変化したのではなく、円建てプラチナ価格が高騰したためだ。円建て平均価格が昨年の2倍近く上がり、宝飾品に使われるプラチナの価値は 50% 増えた。しかし、プラチナ宝飾品の小売販売も同様に増えたわけではなく、メーカーや小売業者がコスト上昇分を吸収せざるを得ず収益率が低下した。日本では宝飾品は輸入も輸出もされているため、国内で製造される宝飾品と小売店の在庫量には差が生じるが、関係者からは宝飾品の販売が決して低迷したわけではないとの報告を受けている。

インドのプラチナ宝飾品製造は前年同期比で 4% 減って 1.6トンだった。輸出は昨年同期とほぼ同じ水準で、主な輸出先も米国、英国、UAEに変わらなかった。国内市場は大手メーカーやチェーン店の拡張が続き、店舗ではダイヤモンドや貴石をはめ込んだタイプの商品をディスカウントするなど販促が行われたが、販売は伸びず低調が続いた。展示会や宝飾展の来場者数や注文数の減少も消費者需要が弱くなっていることを裏付ける。さらには、プラチナ地金インゴットの輸入関税が 6% から 15%に引き上げられて国内メーカーのコストを押し上げ、収益を奪った。また、プラチナ宝飾品の輸入には Directorate General of Foreign Trade (DGFT) のライセンスが必要となったため、海外のデザイナーによる宝飾品の輸入が制限された。

工業需要

工業のプラチナ需要は前年同期比でおよそ 6% 増えて 18.7トンだった。ガラスとAI 関連の電子材の需要および水素関連分野の需要が伸び、石油と化学分野の需要低迷を補った。

石油

石油産業のプラチナ需要は前年同期比でマイナス 31% だった。米国とイランの紛争緩和の動きで石油の供給が一部回復したものの、中東の石油精製は紛争前の水準を大幅に下回ったままだ。一方で、ウクライナがロシアの精製所を攻撃して操業が停止するなど、世界中の石油精製所のメンテナンススケジュールが大いに乱れ、触媒交換の需要に影響した。その反面で、米国や欧州など中東産の原油への依存度が低い地域の精製所は、商品の逼迫で逆に大きく収益率が向上するという恩恵に預かった。石油精製所の稼働率は上がったが、生産量を上げるために緊急性のないメンテナンスは後回しにされている。

化学

化学産業のプラチナ需要は前年同期比で 6% 減ったが、前期比では概ね横ばいだった。前年と比べて減ったのは肥料生産の落ち込みが大きかったことが原因だ。プラチナベースのガーゼを利用して生産する硝酸の最大用途先は肥料生産だが、イラン戦争勃発以来、肥料業界は深刻な供給障害に直面している。というのも窒素肥料の生産に不可欠なアンモニアは中東が最大の輸出先になっているからで、天然ガスの高騰によるコスト高もそれに追い打ちをかける。また、第1四半期に続いてプロパン脱水素(PDH) とパラキシレン(PX) 生産にも新規設備拡張がなく、石油化学分野のプラチナ需要は定期的な触媒補給にとどまった。一方で、シリコンの需要については、データセンターの建設需要が高性能シリコンの新たな需要源となり、シリコン産業のプラチナ需要に貢献した。

医療

医療分野のプラチナ需要は前年同期比でほぼ横ばい、2.5トンだった。心臓リズム管理デバイス、電気生理学と冠動脈処置の増加に支えられた循環器系機器の需要が増えたが、その他の分野の需要減少に相殺された。プラチナ製抗癌剤の製造はカルボプラチンやオキサリプラチンなどの化合物の供給が制約されたために影響を受け、歯科分野では特に日本で非金属修復のシェア拡大に伴うプラチナ需要が減っている。

ガラス

ガラスのプラチナ需要は前年同期比で 41% 増えて 4.9トンになった。AI サーバー、データセンター、先端電子材への投資が急増し、グラスファイバーの需要が増えた。地域的には生産能力増強を行い、付加価値の高い電子材グレードのガラス繊維へのシフトを進める中国に需要の増加が集中している。高性能プリント基板用のガラスクロスに使われる極細繊維や低誘電率ガラス繊維などがこれにあたるが、従来の長繊維補強ガラスの生産能力増強も止まっていない。

合理化が進む中国以外の地域でも需要は好調だ。従来のグラスファイバーや電子材用ガラスにおいてコストの高いメーカーは中国のメーカーにシェアを奪われたが、日本や台湾のメーカーはより専門性の高い製品に注力している。液晶ディスプレイ(LCD) のプラチナ需要は低迷が続く。

電子材

電子材のプラチナ需要は前年同期比で 22% 増え (+0.15トン) 0.90トンだった。これは主に AI のためのデータセンターの拡張と先端半導体への投資が加速したことによる。ストレージ市場でもAI 需要の急増による大容量の企業向けのハードディスクドライブに不足が生じているほどだ。一方で、ハイパースケーラクラウド事業者は長期契約を通じて2026年末までストレージ供給を確保しているため、これまで見られた季節的な需要の谷間が消え、製造ラインはフル稼働が続く。

水素: 定置型燃料電池とその他

水素および定置型燃料電池などのプラチナ需要は、前年と比べて水電解装置と燃料電池の普及が進んでいることを反映して、前年同期比で 72% 増えて 0.59トンになったが、前期比では 5% 減った。既に承認されているプロジェクトで水電解装置の調達と建設が進み、固体高分子膜技術のメーカーからは上半期の受注数が増えたとの報告を受けている。

燃料電池の需要も増えており、特に定置用、移動式、分散型電源が好調だ。重要インフラや工業分野、保全や防衛分野で災害などにも対応できるオフグリッド電源の需要が高まっており、送電網からの独立性、移動性、信頼性の高い移動式燃料電池を求める動きが強い。しかし、水素セクターはプロジェクト先導であるため、機器の納入や試運転のタイミングによって四半期ごとの需要に大きな変動が生じる。これが前年同期比で需要が伸びたにもかかわらず、前期比ではわずかな減少という結果になった原因だ。

その他

その他の分野のプラチナ需要は前年同期比で 3% 減って (-0.12トン) 4.5トンだった。これは主に自動車関連の需要減少によるもので、エンジン車の減産でスパークプラグの需要が減り、アフターマーケット製品の交換需要も減った。スパークプラグでは高性能スパークプラグにおいて、プラチナではなくイリジウムやルテニウムをベースとする電極に需要がシフトしていることも影響している。航空業界では商用機の納入数が過去数年の上半期として最高に達するなど生産が回復しているが、タービンブレード、燃料ノズル、オゾン触媒コンバーターなどの航空宇宙関連需要も好調だった。

投資需要

第2四半期はインゴットとコインの投資需要が急減し、純購入量は前年同期比で 71% (-2.8トン)も減ってわずか 1.15トンだった。これはコロナ禍以来最大の減少幅で、中国の需要が激減し、北米でも販売が大きく減ったことが主因だ。

中国のインゴットとコインの投資需要は前年同期比でマイナス 74%、前期比でマイナス 41% で 0.93トンだった。4月のプラチナはレンジ相場が続き、5月と6月も大きく下落したためだが、それでも投資家の間ではプラチナ認知度は高まっており、上半期の合計は前年比では低くても過去2番目に高い水準だった。

日本の第2四半期は貴金属価格の動きが鈍く投資家の関心が遠ざかったため、インゴットとコインの投資需要需要に強く影響した。日経平均が4月から6月のピークまでに 44%も上がるなど、国内株価が好調だったこともプラチナには逆風だった。この期間インゴットとコインの売買高は急減し、売りも買いもどちらも過去の数四半期の水準を大きく下回り、純売却が 0.31トンとなった。

米国のインゴットとコインの投資需要は前年同期比で 推定59% 減り(-0.43トン) わずか 0.28トンになった。ゴールドとシルバーのインゴットとコインの販売も同様に市場全体が低迷した。日本のように買い戻しも少なく、個人投資家の利食い売りも今年前半ほどなかった。

欧州のインゴットとコインの投資需要は 0.18トンを超え、水準が低かった前期比では 12% 増えたが、前年同期比では半減した。価格の低迷が続いたために短期的な価格の見通しが悪化し、貴金属全般に対する投資心理が冷めたことが背景にある。

チャート 4：プラチナ投資 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

インドのプラチナ投資需要は、国内の貴金属投資が広く減速したことを受け、昨年下半年の勢いが衰えて急速に減った。国内のプラチナ商品の供給が増えて消費者の認知度も向上したにもかかわらず、株式市場のボラティリティーが大きく地政学リスクも消えない中で投資家の購入は大きく鈍化した。これを受けて宝飾品メーカーが投資商品にシフトする動きが鈍り、地金ディーラーや精錬業者、新規のプラチナインゴットとコインのメーカーの製造量も減った。

その他の地域のインゴットとコインの投資需要は前年同期比で 72% 減るなど大幅に減少した。これは主に過去 2 四半期に活発に購入を続けたオーストラリアの投資家の動きが止まったことが背景にある。しかし、第 2 四半期は急激な価格調整と金利上昇で貴金属を保有する機会コストを減らすことになったため、投資需要の減少に拍車をかけた。

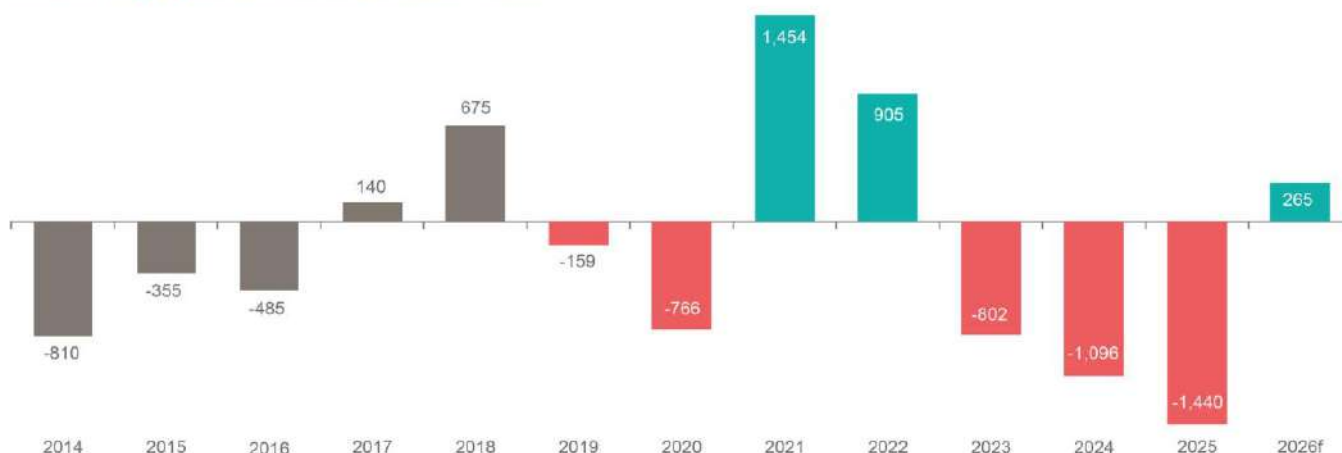
プラチナETFの保有高は第 2 四半期中にさらに全手の地域で減少し、全体で 7.3 トンが流失した。前期と違って売却の大半は北米の投資家によるもので、北米の保有高は 4.6 トン 減った。南アフリカの投資家のETF売却の勢いは止まり保有高 1.02 トンになった。欧州の投資家心理も良くなり純売却量は 1.21 トンだった。日本では前期の需要増が反転し、0.43 トンの流出となった。一方、取引所在庫が 1.7 トン 増えたのは、初めての先物商品の満期が6月末となった広州先物取引所承認の保管庫在庫の状況がデータとして上がってきたことによる。

2026 年の展望

今年のプラチナ市場の最新の展望は上半期の動向によって大きく変わった。プラチナから投資資金が大量に流出し、プラチナ宝飾品製造も急減、自動車需要も減ったため市場の逼迫感が緩和された。投資需要がマイナスに転じたのは主に ETF の売却と取引所在庫の流出によるもので、在庫が大量に増えた2025年の状況と対照的だ。宝飾品需要の減少は中国に集中している。これらの分野の需要が減るために、ガラス、電子材、AIやデータセンターのインフラ関連などが好調な工業需要を相殺してしまうだろう。高いPGM 価格のおかげでリサイクル業者の収益性が向上してリサイクル供給は増えるだろうが、鉱山供給は概ね変化がない予測だ。

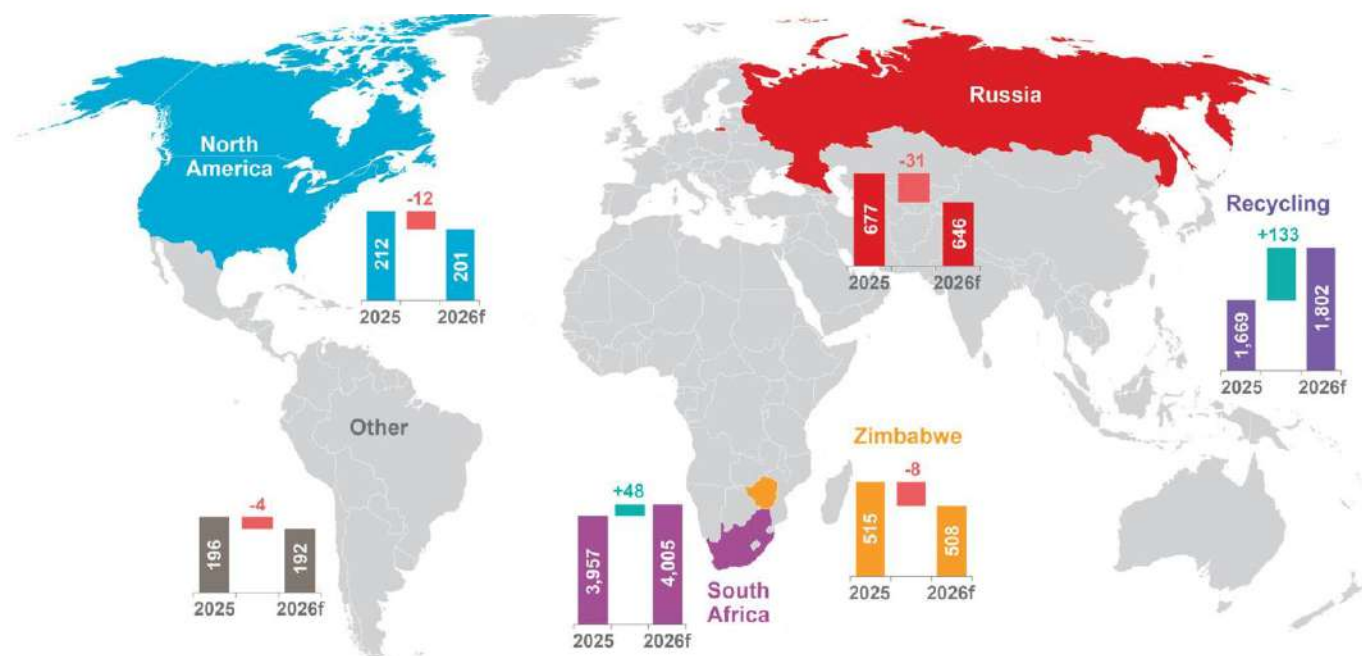
以上の需給状況から、プラチナ市場は2022年来初めて 8.2 トンの供給過剰になる見込み。2025年は 44.8 トンの供給不足であったから、この差は 53.0 トンにも達する。供給は 2% 増えて 228.7 トンの予測で、鉱山供給は前年並みの 172.6 トン、リサイクル供給は 8% 増えて 56.0 トンになるだろう。需要は 18% 減って 220.5 トンの予測だが最も変動が大きいのは投資需要だ。ETF と取引所在庫は2025年に大幅に増えたが、今年は一転してETFは売り越し、取引所在庫は流出するだろう。宝飾品需要も 15% 減って 58.6 トンになる予測。自動車需要はエンジン車の減産がハイブリッド車の伸びを補えずにマイナス 4% で 90.3 トンになる予測。一方で工業需要はガラス、電子材、化学産業が牽引となって 5% 増えて 74.2 トンになるだろう。

チャート 5 : 2014年から2026年予測の需要供給バランス (koz)



出典：2014年～2018年はSFA(オックスフォード)、2019年～2026年予測はメタルズフォーカス

チャート 6 : 2025年と2026年の供給の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

供給

2026年の世界のプラチナ供給予測は前回の予測とあまり変わらない 172.6トン。前年比で増加となる南アフリカの増産は、その他の地域の減産と相殺されるため全体では横ばいとなる。

南アフリカの生産は上半期は前年同期比 19% 増えたが、下半期は減産予測のため通年ではわずか 1% しか増えないだろう。上半期の生産が例年になく増えたのは昨年の洪水で被害を受けた Amandelbult 鉱山が全面的に操業再開できたことによる。下半期は Valterra が上半期に予定していた溶鉱炉のメンテナンスを、冬季に高くなる電気料金を避けるために下半期にずらした影響で減産の見込み。

PGM 価格は第2四半期に下がったものの前年比ではまだ高い水準にあるため、鉱山生産の採算性は大きく改善され、予測されていた収益の圧迫による減産のリスクは減った。年内に新たに供給源が追加されるわけではないが、PGM 価格が低かったために延期していたプロジェクトを再開した鉱山会社もある。

ジンバブエでは上半期に行われた Zimplats の溶鉱炉メンテナンスで供給量が変動したが、下半期は安定するだろう。しかし、Unki 鉱山の鉱石品位低下のため、年間生産量は1% 減って 15.8トンになる予測。

ロシアでも鉱石の PGM 含有率が低下しており減産の予測。北米でもニッケル採掘の副産物が減るためプラチナ生産はわずかに減るだろう。

リサイクル

2026年のリサイクル供給は 8% 増えて 56.0 トンになる見込みで、プラチナ供給の増加分は全てリサイクルによるものだ。廃触媒のリサイクルは 15% 増えて 44.8 トンになるが、宝飾品のリサイクルはこれまでで最も少ない 9.1 トンになるだろう。電子材分野ではサーバーやデータ関連の機材が更新サイクルに入るためリサイクルが増えるだろう。

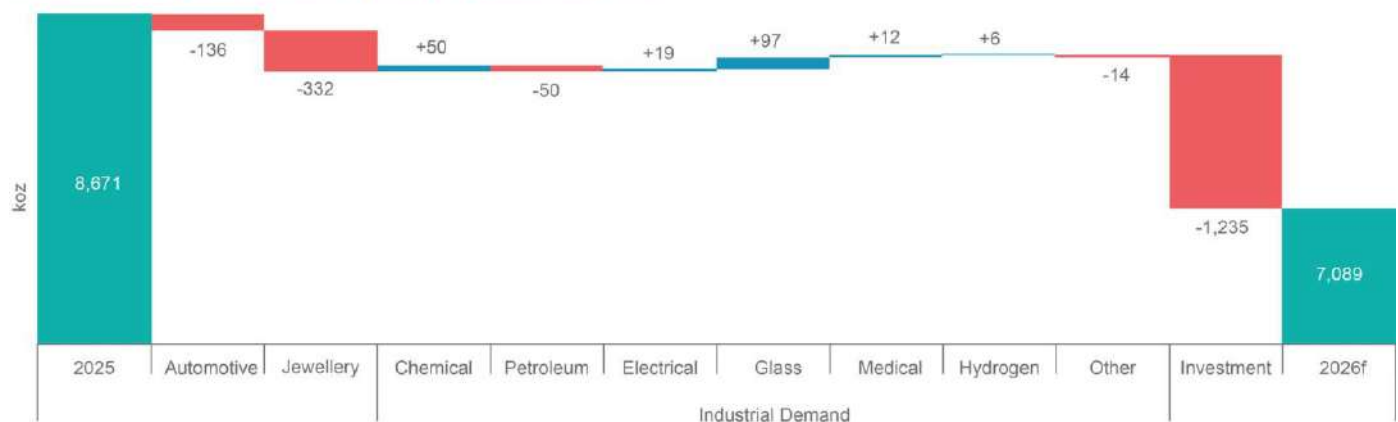
廃触媒リサイクルの回復が上半期に集中しているのは、メタル価格の上昇を受けてこれまで溜め込まれていた資材がリサイクルに出されたためだ。欧州では車両の買い替えや後処理装置の交換やリコール、これまで前処理のために中東に出荷されていた廃触媒が欧州域内で処理されるようになったことが追い風となった。北米では新車販売が伸び悩んだが、メタル価格の高騰に伴って蓄積されていた廃触媒が積極的にリサイクルされた。しかし、廃車両の年式が古いこと、炭化ケイ素をベースとするディーゼルフィルターを含む品位が低くて処理が難しい触媒装置が増えたことなどで、実際に回収される触媒装置の数ほどの PGM を回収することができなくなっている。したがって下半期の欧州の主要市場のリサイクル供給は緩やかな増加にとどまるだろう。

プラチナ宝飾品のリサイクルは 18% 減る予測だが、これはひとえに 28% も減る中国が原因だ。プラチナ価格の年間平均が高い水準にあるにもかかわらず、昨年のようなサプライチェーン全体を通じて在庫処理が行われる可能性は低く、宝飾品消費も減退しているために買い替えに伴うスクラップも増えないだろう。一方で、IT 資産の廃棄や更新に伴って電子材のリサイクルは増える予測。2020年から2022年のクラウドコンピューティングの拡大期に導入された機器が買い替えの時期に来ているのと、AI インフラに対する投資が急速に拡大していることもサーバーの更新を加速している。

需要

2026年のプラチナ需要は昨年の 269.7トンから 220.5トンに減る予測だ。最も大きく変動するのは投資需要で、それに続くのが宝飾品需要。工業需要はガラス、化学、電子材のプラチナ需要に支えられるだろう。

チャート 7：2025年と2026年（予測）の分野別需要の変化



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

自動車需要

英国のデータ分析会社 GlobalData は、今年の世界のLDV 生産予測台数を2度も下方修正しているが、現在の予測は917万台で、年初の予測台数を約300万台下回る。下方修正は全てのパワートレインに及ぶが、地域別で見ると、新エネルギー車の購入補助策が変更され国内需要が弱まった中国の予測台数が最も大きく減った。米国でも政府によるEVの購入補助が打ち切られた。原油価格の変動やイラン戦争の影響でインフレ圧力が広まり、自動車の需要及び生産計画にも不確実性が高まっている。

世界の LDV 生産は前年比マイナス 1% の予測だが、減産は触媒装置搭載車両に偏る。電動化が進む一方でハイブリッド車の生産は比較的堅調だ。また、BEV 生産も下方修正はされたものの 14% 増える見込み。北米では大型のガソリン車やピックアップトラックに需要がシフトしているが、このような車種は収益性が高く触媒装置のPGM使用量も多いため、メーカーが生産を優先すればプラチナ需要をある程度支えることになる。

こういった環境を背景に世界の自動車のプラチナ需要は前年比で 4% 減って (-4.2トン) 90.3トンになる予測だ。

欧州の LDV 市場ではエンジン車離れが続き、自動車のプラチナ需要を押し下げて、前年比マイナス 8% (-2.4トン) 27.2トンになるだろう。特にプラチナ触媒の使用量が多い LDV ディーゼル車の生産が大きく減る予測だ。ハイブリッド車の生産は堅調だが、昨年よりは鈍化している。その一方で、LDV に占めるBEV のシェアは伸びている。HDV 及び一般道を走行しない車両の増産がプラチナ需要の一定の支えとなるものの、電動化の普及による需要の減少を補うことはできないだろう。

北米の自動車のプラチナ需要は、ハイブリッド車、大型ガソリン車とHDV のエンジン車に支えられ、前年比で 4% 増えて (+0.56トン) 14.7トンになる予測。BEV の生産は政府が昨年第3四半期に EV 購入補助策を撤廃したために減る予測ではあるが、連邦政府は EV に敵対的な姿勢だが州政府レベルでは支援策を打ち出しているところもあるなど政策の方向性は一貫していない。例えばカリフォルニア州は初めてゼロエミッション車を購入する消費者が、新車、中古車に限らず優遇される MyFirstEV プログラムがある。今年5月には環境庁が LDV 及び中型トラックを対象とする「Tier 4」排ガス規制の適用を MY2027 (2027年モデル) から MY2029(2029年モデル) に先延ばしすることを提案した。これがもし実施されれば、「Tier 4」規制の延期と見直しによって、EV 普及のペースが予想よりも遅くなる可能性もある。

中国は引き続き自動車のプラチナ需要の予測における最大のリスク市場だ。中国の自動車のプラチナ需要は 9% 減って 15.2トンの予測で、国内の自動車需要の低迷は触媒装置搭載の LDV 生産の大幅な減少につながるだろう。好調な輸出がある程度の支えになっているが、NEV 優遇策の変更を経た国内市場の低迷を補うことはできない。電動化が進む一方で、HDV と一般道を走行しない車両のプラチナ需要にも期待がもてない。

日本市場でもLDVのエンジン車の減産分がEVの増産分を補えず、プラチナ需要は前年比で 11% 減って 8.0 トンになる予測。BEV はクリーンエネルギー自動車導入促進補助金制度に支えられて倍増すると見られている。

その他の地域の自動車のプラチナ需要は堅調で 1% 増えて 25.1トンになる予測。その牽引役はインドで、触媒装置搭載の LDV と HDVだけでなく、ハイブリッド車と BEV の生産も増える予測だ。

以上、今年の自動車のプラチナ需要の展望は明るいとは言えないものの、地域によって大きな差がある。需要低迷の大部分は中国と欧州にあるが、北米とインドではハイブリッド化と大型車へのシフトと商用車の生産の増加が需要を一部補っている。

宝飾品需要

2026年の世界のプラチナ宝飾品需要は前年比で 15% 減り 58.6トンになる予測で、需要縮小は中国に集中している。昨年積み上がった在庫の反動と消費者需要の減退、そして業界が再びゴールドに向いていることなどがその背景だ。日本とインドでもプラチナ価格の上昇が需要を圧迫するだろう。一方で欧州と北米の需要は比較的堅調で、プライダル需要に加えゴールドに対するプラチナの割安感が支えになっている。

欧州のプラチナ宝飾品需要は今年も好調で、プラチナ価格が第2四半期に下落してゴールドに比べて購入しやすくなり、他の貴金属の宝飾品需要を引き離すだろう。プライダル分野は生活費上昇の圧力がある中でも価格の影響を比較的受けにくいいため今後も堅調が続く予測だ。

北米のプラチナ宝飾品需要は予想よりもプラチナ価格が安くなったおかげで 6% 伸びる予測。前年よりは高いプラチナ価格だが、ゴールドに比べて割安感が強いいため宝飾品販売は堅調だ。特にホワイトゴールドからプラチナへ需要が移っている。また、プライダル市場ではプラチナ商品が主流なため価格上昇の影響をある程度吸収できるだろう。関税の影響で輸入は伸び悩むだろうが、国内の宝飾品製造は成長予測だ。

日本ではプラチナの年間平均価格が大きく上昇したが、消費者の購買意欲が弱まったわけではなく、宝飾品製造は前年比でマイナス 15% に抑えられるだろう。円安を背景に現物資産を保有する魅力や、国内株式市場の急速な株価上昇で資産が拡大したこと、そしてゴールドに対して相対的に安価であることなどが需要を支える。

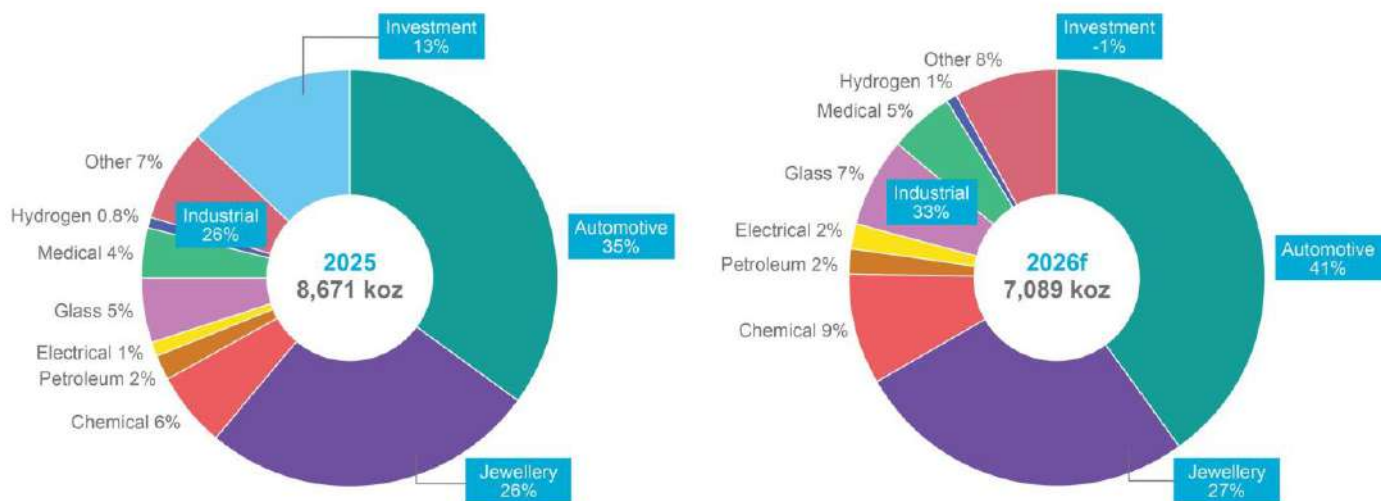
中国では第2四半期のプラチナ宝飾品販売が予想を下回ったことを踏まえ、通年の需要予測は前年比 55% 減の 8.1トンとなる。以前の予測はマイナス 43% だった。今回の下方修正は消費者需要の低迷と在庫調整が継続していること、業界が再びゴールド商品中心にシフトしていることなどを反映している。

インドのプラチナ宝飾品製造予測については、上半期の価格変動が大きく需要が予想を下回ったため下方修正を行い、前年比 6% 減って約 7.2トンになる予測。上半期は輸出も振るわなかった。祝祭シーズンの到来で国内需要は下半期には改善する予測だが、上半期の不振はカバーできないだろう。プラチナ価格が急に上昇でもすれば価格面での優位性が崩れて、ゴールドに替わる商品としての需要が減り小売業者が客にアップセルを行える機会も減るが、小売店の販売網の拡張が続けば国内の需要の低迷を食い止めることは可能かもしれない。

工業需要

工業のプラチナ需要は 5% 増えて約 74.2トンになる予測。ガラス、化学、電子材、医療、水素関連などが増え、石油やその他の分野の需要が減るだろう。

チャート 8：2025年と2026年（予測）の分野別需要



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

ガラス

2026年のプラチナのガラス需要は、LCD とガラスファイバー生産の予測更新を反映し、前回の予測を上方修正して前年比 23% 増えて 16.4トンになる予測。

ガラスファイバー生産の拡大を牽引するのは引き続き中国だが、これは一方で生産コストの高い地域、欧州や北米での構造的な生産縮小と同時進行であり、中国以外の国では中国に需要を依存することになる。2027年にも北米でガラス生産設備の閉鎖が予定されており、需給バランスが再び調整されるだろうが、中国の生産拡大はその他の地域の生産縮小で相殺され、世界全体の生産の伸びは緩やかなものにとどまるだろう。この地理的な変化とともに需要の構成にも変化が生じている。生産の成長を支えるのは高度な仕様が要求される電子材、AI分野のための回路基板に使われる低誘電率ガラスクロスなどだ。こうした付加価値の高い製品の生産はアジア全域で行われているが、汎用品の生産は中国に集中している。

LCD 生産のプラチナ需要は回復する予測だが、中国の投資が活発だった2024年の水準を大きく下回るだろう。一部のガラスファイバー用途ではブッシング合金に使われるプラチナをパラジウムで代替する研究開発が進むが、商業化までにはまだ明確でない部分もあるため、今回のベースケース予測にはこの代替需要の影響は含まれていない。

石油

現在ホルムズ海峡の運航はまだ危険な状態にあり、いつ平常に戻るのかわからない。その一方で、ロシアの製油所はウクライナのドローン攻撃で甚大な影響を受けるなど、世界の石油精製業界のメンテナンススケジュールは混乱している。

今年の世界の石油精製能力は拡大するとされているが、それだけでは紛争を取り巻く混乱が製油所に及ぼしている影響を補えない可能性が高い。またガス・ツー・リキッド工場の触媒交換回数が減る予測も考慮すると、2026年の石油分野のプラチナ需要は 28% 減るだろう。とはいえ、この減少は恒久的なものではなく、状況が正常化すれば需要の回復は可能だ。

化学

2026年上半期の化学分野のプラチナ需要は横ばいだったが、下半期は中国で新たな石油化学プラントが稼働するため需要増が見込まれる。この新たなプラントでは約 200万トンの PX 生産能力を含む設備の設置が完成し、8月から試運転が始まっている。シリコンのプラチナ需要は回復予測だが、肥料生産のプラチナ需要が減るため相殺されるだろう。以上から化学分野のプラチナ需要は前年比 9% 増える予測。

医療

2026年の医療分野のプラチナ需要は前年比 4% 増え (+0.37トン) 10.3トンになる予測。最大の需要源である医療機器については、心血管系処置件数の増加と技術革新に支えられて継続的な需要増が期待できる。プラチナベースのがん治療も増えるだろう。第2四半期に一部の化学療法薬の供給制約が発生したが、それも下半期にかけて解消するだろう。これらの分野の需要増は、非金属材料がシェアを伸ばしている歯科分野の需要減を補うことができると考えられる。

電子材

2026 年の電子材のプラチナ需要は前年比 19% 増で 3.7トンになる予測。HDD メーカーは SSD との競争を念頭に生産拡大については慎重な姿勢を保っているため、磁気ヘッドから基板を含む部品供給で滞りが生じている。それでもストレージ需要は急速に拡大しており、大手クラウド事業者は長期契約を2028年まで延長することを検討中だ。そうなれば HDD 製品の寿命が伸びるとともに将来の生産量も確保できる。また、大容量熱アシスト磁気記録(HAMR) ドライブの出荷増加で、単位あたりのプラチナ使用量が増えている。半導体分野ではメーカーが最先端プロセスノードの生産を増やすために戦略的な設備投資を続けており、今後2年にわたって段階的に増産が見込める。ウエハの増産は高純度プラチナ合金スパッタリングターゲットの需要を支える基盤だ。プラチナ価格が高いが故に業界ではコスト削減のために代替材料の研究が進むが、認定や実用に向けたハードルは高く、代替材料がすぐにプラチナ需要を脅かすことはないだろう。

水素: 定置型燃料電池とその他

2026 年の水素関連のプラチナ需要は前年比 8% 増えて 2.4トンになる予測。 需要を支えるのは建設中、あるいは開発が進んだプロジェクトだが、今年全体を通じて複数の大規模水電解装置プロジェクトが建設や設備納入段階に進む。エネルギー安全保障と脱炭素化政策もまた、低炭素排出の水素生産設備への投資を支える。

とはいえ、水素プロジェクトを取り巻く状況は様々ではない。発注確定まで進んでいる大規模プロジェクトがいくつかある一方で、受注に至らないプロジェクトも数多い。フラグシップ的な大型プロジェクトが完了しても次の開発に進むペースが遅くなっているケースもあり、プロジェクトの遅延、投資の最終決定が二転三転するケースなどもこの市場の特徴だ。以上を鑑みると、水素関連のプラチナ需要は今年も成長はするものの、過去数年間みられたような急速なペースでは進まないだろう。

その他

2026 年の水素関連のプラチナ需要は前年比でわずかな減少となるだろう。エンジン車の減産に伴ってスパークプラグの需要が減るだけでなく、高性能スパークプラグではイリジウムやルテニウムがプラチナの代わりに使われるようになっているからだ。しかし、ハイブリッド車の増産と排ガス規制の強化でプラチナが使われるセンサーの需要が増えている。航空宇宙分野の需要も伸びが期待できる。

投資需要

2026 年の世界のプラチナインゴットとコインの需要は 22% 減って(-2.8トン) 9.7トンになる予測。米国での利上げの可能性が減り今年後半は価格上昇が予測されることから、中国を除く主要市場ではセンチメントが好転するだろう。中国は今回の需要減の大きな原因ではあるが、これは2025年の需要が過去最高水準だったことも背景にある。第2四半期の実績が予想を下回ったため、ほとんどの市場では前回の予測を下方修正することになった。

中国ではプラチナ価格が上昇する予想だが、そうなれば投資家離れが起きる可能性が高く、第2四半期の実績も考慮して以前の需要予測を下方修正して前年比マイナス 38% で 4.6トンとした。ただし、これでも過去 2 番目に多い水準で、2024年を大きく上回るだろう。

日本のプラチナインゴットとコインの需要も第2四半期の状況から以前の予測を下方修正してわずか 0.80トンとしたが、下半期は回復して買い越しになるだろう。しかし、上昇が続く株式市場からの逆風も弱まるにつれて、日本の投資家は価格上昇にポジティブに反応するだろう。

北米の需要については、前年比で 9% 減ってここ数年来の低い水準になる予測だ。第3四半期に入っても続く第2四半期からの低迷を反映し、通年の予測も下方修正した。年末までには一部でも需要が回復するだろうが、メタル価格の上昇に加え、中間選挙による不確実性の高まりにも影響されるだろう。

欧州の需要もメタル価格の上昇に影響されるだろうが、プラチナの良好なファンダメンタルズのおかげで割安な資産を探し求める投資家の関心を集め、インゴットとコインの需要は前年比 6% 増えるだろう。

インドでは、貴金属投資の時流に乗り遅れまいとする購入が減り前年比で 3 分の 2 まで投資需要が減る予測ではあるが、それでも過去 2 番目に多い年になるだろう。その他の地域のインゴットとコインの需要は前年比で半減するだろうが、オーストラリアの投資家の関心は比較的長く続くだろう。全体の投資需要は第2四半期同様に金利上昇予測と利益確定売りの両方から抑えられるだろう。

プラチナ ETF の保有高は世界全体で売り越し 12.1トンになる予測。北米では年初からの7ヶ月間で大量に売却されたが、底堅い価格と今後の上昇見通しで投資家心理が好転し、プラチナ投資を再開する動きで年末にかけて一部回復するだろう。南アフリカの投資家も上半期の売却の波を経て残高が減ったことで今後は少しずつ買い増すだろう。欧州のETF残高は概ね横ばい、日本では円安を背景にした現物資産への投資熱の一部がプラチナ価格の高騰で相殺され、ETF保有高はわずかな売り越しになるだろう。そのほかの地域でもわずかな売り越しになる予測。

地上在庫

2026年のプラチナ市場は 8.2トンの供給過剰 になり、地上在庫は2025年末の 54.3トンから 62.5トンに増えるだろう。3年連続で大幅な供給不足が続いた後に初めて利用可能な現物在庫が増えることになる。しかし、この増加も地上在庫の減少傾向を少し緩和するだけで、依然として2022年の水準を大きく下回っている。

世界のプラチナ需要のおよそ 3.4 ヶ月分しかない地上在庫が逼迫状況にあることには変わりなく、プラチナ市場は新たな供給障害や予想を上回るような需要に対して引き続き敏感な状況にあると言える。

WPIC が定義する地上在庫とは、年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所保有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社の加工在庫ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量をいう。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2026

表 2：供給、需要、地上在庫のまとめ — 年間比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)													
SUPPLY													
Refined Production	6,045	6,130	6,125	6,074	4,990	6,294	5,523	5,606	5,777	5,557	5,551	-4%	0%
South Africa	4,265	4,385	4,470	4,374	3,298	4,678	3,915	3,957	4,133	3,957	4,005	-4%	1%
Zimbabwe	490	480	465	458	448	485	480	507	512	515	508	1%	-1%
North America	390	360	345	357	339	272	265	278	265	212	201	-20%	-5%
Russia	715	720	665	716	704	652	663	674	677	677	646	0%	-5%
Other	185	185	180	169	200	206	200	190	191	196	192	3%	-2%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+30	+30	+10	+2	-82	-94	+45	+14	+10	+4	+0	-57%	-100%
Total Mining Supply	6,075	6,160	6,135	6,076	4,908	6,200	5,568	5,620	5,787	5,561	5,551	-4%	0%
Recycling	1,860	1,915	1,955	2,157	2,041	2,107	1,811	1,515	1,536	1,669	1,802	9%	8%
Autocatalyst	1,210	1,325	1,430	1,612	1,553	1,619	1,370	1,114	1,163	1,232	1,422	6%	15%
Jewellery	625	560	505	476	422	422	372	331	298	356	293	20%	-18%
Industrial	25	30	30	69	66	67	69	71	76	81	88	7%	8%
Total Supply	7,935	8,075	8,090	8,234	6,949	8,307	7,378	7,135	7,323	7,231	7,353	-1%	2%
DEMAND													
Automotive	3,360	3,300	3,115	2,689	2,200	2,469	2,769	3,206	3,110	3,039	2,904	-2%	-4%
Autocatalyst	3,225	3,160	2,970	2,689	2,200	2,469	2,769	3,206	3,110	3,039	2,904	-2%	-4%
Non-road	135	140	145	†	†	†	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	2,505	2,460	2,245	2,106	1,830	1,953	1,880	1,849	2,008	2,214	1,883	10%	-15%
Industrial	2,020	1,900	2,040	2,328	2,094	2,444	2,328	2,493	2,588	2,266	2,385	-12%	5%
Chemical	560	570	565	801	647	622	690	829	645	563	613	-13%	9%
Petroleum	220	120	235	219	109	169	193	160	159	182	132	14%	-28%
Electrical	195	210	205	144	130	135	106	89	93	99	118	6%	19%
Glass	320	260	275	235	400	683	475	491	739	430	528	-42%	23%
Medical	235	235	235	277	256	267	278	292	308	321	332	4%	4%
Hydrogen Stationary and Other	†	†	†	30	29	18	14	23	40	71	77	77%	8%
Other	490	505	525	621	523	552	572	609	603	600	586	0%	-2%
Investment	535	275	15	1,271	1,592	-13	-504	388	713	1,152	-83	62%	N/A
Change in Bars, Coins	460	215	280	285	603	340	273	314	205	402	313	96%	-22%
China Bars ≥ 500g	†	†	†	16	23	27	90	134	162	165	106	2%	-36%
Change in ETF Holdings	-10	105	-245	990	507	-241	-559	-74	296	200	-389	-32%	N/A
Change in Stocks Held by Exchanges	85	-45	-20	-20	458	-139	-307	14	50	384	-112	>±300%	N/A
Total Demand	8,430	7,935	7,415	8,393	7,715	6,853	6,473	7,937	8,418	8,671	7,089	3%	-18%
Balance	-485	140	675	-159	-766	1,454	905	-802	-1,096	-1,440	265	N/A	N/A
Above Ground Stocks	1,740*	1,880	2,555	3,491**	2,725	4,178	5,084	4,281	3,186	1,745	2,010	-45%	15%

出典：メタルズフォーカス（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

注：

1. 地上在庫：* 128.8トン 2012年12月31日時点（SFA（オックスフォード）社）。** 113.5トン 2018年12月31日時点（メタルズフォーカス社）。
2. †一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
4. 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2026

表 3：需要と供給のまとめ－四半期ごとの比較

	Q2 2024	Q3 2024	Q4 2024	Q1 2025	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025	Q1 2026	Q2 2026	Q2'26/Q2'25 Growth %	Q2'26/Q1'26 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)											
SUPPLY											
Refined Production	1,541	1,459	1,549	1,101	1,446	1,414	1,597	1,329	1,474	2%	11%
South Africa	1,127	1,049	1,161	711	1,044	1,031	1,172	1,014	1,082	4%	7%
Zimbabwe	126	132	121	114	137	127	138	90	152	11%	68%
North America	59	59	74	49	58	50	55	47	47	-19%	-2%
Russia	181	172	146	180	158	156	183	136	148	-6%	9%
Other	48	48	47	47	49	51	49	41	47	-5%	14%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+35	-24	-25	-20	+21	-26	+29	+11	-34	N/A	N/A
Total Mining Supply	1,576	1,435	1,524	1,081	1,467	1,388	1,626	1,340	1,441	-2%	8%
Recycling	395	372	390	388	429	414	438	459	466	9%	1%
Autocatalyst	305	284	296	290	319	308	315	354	374	17%	6%
Jewellery	72	68	74	78	90	86	102	84	68	-24%	-19%
Industrial	19	20	20	19	20	21	21	21	23	16%	11%
Total Supply	1,971	1,807	1,914	1,469	1,896	1,802	2,064	1,799	1,906	1%	6%
DEMAND											
Automotive	787	735	769	767	778	726	768	735	729	-6%	-1%
Autocatalyst	787	735	769	767	778	726	768	735	729	-6%	-1%
Non-road	†	†	†	†	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	507	494	523	532	671	492	519	461	456	-32%	-1%
Industrial	680	566	591	492	567	619	587	570	600	6%	5%
Chemical	136	122	149	115	147	158	143	135	138	-6%	3%
Petroleum	40	40	40	45	45	45	45	33	31	-31%	-5%
Electrical	23	24	24	22	24	26	27	27	29	22%	5%
Glass	242	142	133	62	111	146	111	129	156	41%	21%
Medical	77	77	80	78	80	81	82	78	81	0%	4%
Hydrogen Stationary and Other	9	11	13	18	11	17	25	20	19	72%	-5%
Other	154	149	152	151	149	147	153	147	145	-3%	-2%
Investment	460	-223	363	465	-45	305	427	-270	-121	N/A	N/A
Change in Bars, Coins	15	72	57	74	128	82	118	105	37	-71%	-65%
China Bars ≥ 500g	41	30	38	35	47	34	49	44	21	-55%	-52%
Change in ETF Holdings	444	-300	142	-6	97	-169	278	-300	-234	N/A	N/A
Change in Stocks Held by Exchanges	-40	-25	126	361	-317	358	-18	-119	54	N/A	N/A
Total Demand	2,435	1,573	2,245	2,256	1,971	2,142	2,302	1,495	1,663	-16%	11%
Balance	-464	234	-331	-787	-76	-340	-238	304	244	N/A	-20%

出典：メタルズフォーカス（2024年から2026年予測）

注：

1. †一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2026

表 4：需要と供給のまとめ—半年ごとの比較

	H1 2024	H2 2024	H1 2025	H2 2025	H1 2026	H1'26/H1'25 Growth %	H1'26/H2'25 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)							
SUPPLY							
Refined Production	2,769	3,009	2,547	3,011	2,803	10%	-7%
South Africa	1,923	2,210	1,754	2,203	2,096	19%	-5%
Zimbabwe	258	254	251	264	242	-4%	-9%
North America	133	132	107	105	94	-12%	-11%
Russia	359	318	338	339	284	-16%	-16%
Other	96	95	97	99	87	-10%	-12%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+59	-49	+1	+3	-23	N/A	N/A
Total Mining Supply	2,828	2,959	2,548	3,014	2,780	9%	-8%
Recycling	774	762	817	853	925	13%	8%
Autocatalyst	582	580	609	623	729	20%	17%
Jewellery	156	142	168	188	152	-10%	-19%
Industrial	36	40	39	42	44	12%	4%
Total Supply	3,602	3,721	3,364	3,866	3,705	10%	-4%
DEMAND							
Automotive	1,606	1,504	1,545	1,495	1,464	-5%	-2%
Autocatalyst	1,606	1,504	1,545	1,495	1,464	-5%	-2%
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	991	1,017	1,204	1,011	916	-24%	-9%
Industrial	1,431	1,157	1,059	1,206	1,169	10%	-3%
Chemical	374	271	262	301	273	4%	-9%
Petroleum	80	80	91	91	64	-29%	-29%
Electrical	45	48	46	53	56	22%	7%
Glass	463	275	173	257	286	65%	11%
Medical	151	157	158	162	158	0%	-2%
Hydrogen Stationary and Other	16	24	29	42	39	36%	-6%
Other	302	301	300	301	292	-3%	-3%
Investment	573	140	420	732	-392	N/A	N/A
Change in Bars, Coins	75	130	202	200	142	-30%	-29%
China Bars ≥ 500g	94	68	82	83	65	-21%	-22%
Change in ETF Holdings	455	-159	91	109	-534	N/A	N/A
Change in Stocks Held by Exchanges	-51	101	44	340	-65	N/A	N/A
Total Demand	4,600	3,818	4,227	4,444	3,158	-25%	-29%
Balance	-999	-97	-863	-577	548	N/A	N/A

出典：メタルズフォーカス社（2024年から2026年予測）

注：

1. † 一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2026

表5：地域毎の需要 ― 各年と四半期比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025	Q1 2026	Q2 2026
Platinum Gross Demand (koz)																		
Automotive	3,360	3,300	3,115	2,689	2,200	2,469	2,769	3,206	3,110	3,039	2,904	-2%	-4%	778	726	768	735	729
North America	410	390	390	311	268	339	410	446	486	456								
Western Europe	1,630	1,545	1,340	1,355	979	924	972	1,166	1,030	954								
Japan	450	435	425	285	223	248	247	291	287	291								
China	195	230	220	162	254	362	430	538	509	537								
India	170	175	200	††	††	††	††	††	††	††								
Rest of the World	505	525	540	576	476	596	710	764	798	801								
Jewellery	2,505	2,460	2,245	2,106	1,830	1,953	1,880	1,849	2,008	2,214	1,883	10%	-15%	671	492	519	461	456
North America	265	280	280	341	277	409	448	438	445	470								
Western Europe	240	250	255	237	196	260	301	319	343	377								
Japan	335	340	345	372	316	298	333	338	376	383								
China	1,450	1,340	1,095	871	832	703	484	408	412	578								
India	145	175	195	109	59	123	171	203	266	247								
Rest of the World	70	75	75	176	151	159	144	144	166	159								
Chemical	560	570	565	801	647	622	690	829	645	563	613	-13%	9%	147	158	143	135	138
North America	50	50	50	98	103	109	110	121	97	110								
Western Europe	110	115	105	124	111	116	107	104	88	104								
Japan	15	15	15	66	62	65	66	53	58	59								
China	225	220	215	297	215	221	225	362	164	99								
Rest of the World	160	170	180	215	156	110	182	190	238	190								
Petroleum	220	120	235	219	109	169	193	160	159	182	132	14%	-28%	45	45	45	33	31
North America	90	55	55	30	5	32	44	44	56	46								
Western Europe	10	5	20	14	11	18	30	22	21	6								
Japan	0	-20	5	7	6	12	7	6	6	6								
China	80	45	10	66	35	39	26	24	17	14								
Rest of the World	40	35	145	103	52	67	86	64	60	110								
Electrical	195	210	205	144	130	135	106	89	93	99	118	6%	19%	24	26	27	27	29
North America	10	15	15	38	35	35	28	24	25	26								
Western Europe	10	10	10	27	23	25	20	16	17	18								
Japan	15	15	15	20	16	17	14	12	12	13								
China	80	90	85	28	31	31	23	19	20	20								
Rest of the World	80	80	80	31	25	26	22	18	19	21								
Glass	320	260	275	235	400	683	475	491	739	430	528	-42%	23%	111	146	111	129	156
North America	10	5	5	-68	-29	3	10	32	56	10								
Western Europe	5	5	20	59	40	6	26	-90	6	1								
Japan	-10	-10	0	-37	-63	7	-150	5	-9	-183								
China	225	165	120	174	303	702	497	542	759	559								
Rest of the World	90	95	130	108	150	-36	92	1	-73	43								
Medical	235	235	235	277	256	267	278	292	308	321	332	4%	4%	80	81	82	78	81
Other industrial	490	505	525	621	523	552	572	609	603	600	586	0%	-2%	149	147	153	147	145
Hydrogen Stationary & Other	†	†	†	30	29	18	14	23	40	71	77	77%	8%	11	17	25	20	19
Bar & Coin Investment	460	215	280	285	603	340	273	314	205	402	313	96%	-22%	128	82	118	105	37
North America				158	237	259	261	172	119	94								
Western Europe				55	83	65	49	23	33	33								
Japan				46	240	-26	-114	54	-18	2								
China				15	23	26	38	52	64	239								
Rest of the World				11	20	17	39	12	6	33								
China Bars ≥ 500g				16	23	27	90	134	162	165	106	2%	-36%	47	34	49	44	21
ETF Investment	-10	105	-245	990	507	-241	-559	-74	296	200	-389	-32%	N/A	97	-169	278	-300	-234
North America				125	524	-6	-102	-61	165	486								
Western Europe				508	237	56	-314	-99	163	-232								
Japan				-13	56	-23	-26	12	-6	48								
Rest of the World				370	-312	-268	-116	74	-26	-102								
Change in Stocks Held by Exchanges	85	-45	-20	-20	458	-139	-307	14	50	384	-112	>±300%	N/A	-317	358	-18	-119	54
Investment	535	275	15	1,271	1,592	-13	-504	388	713	1,152	-83	62%	N/A	-45	305	427	-270	-121
Total Demand	8,410	7,935	7,415	8,393	7,715	6,853	6,473	7,937	8,418	8,671	7,089	3%	-18%	1,971	2,142	2,302	1,495	1,663

出典：メタルズフォーカス社（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

注：

- † 水素と定置型燃料電池の需要は2019年以前はその他の工業需要に含まれる。
- †† インドの自動車需要はその他の地域に含まれる。
- メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
- 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

PLATINUM QUARTERLY Q2 2026

表6：地域毎のリサイクル供給 ― 各年と四半期比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025	Q1 2026	Q2 2026
Platinum recycling supply (koz)																		
Automotive	1,210	1,325	1,430	1,612	1,553	1,619	1,370	1,114	1,163	1,232	1,422	6%	15%	319	308	315	354	374
North America				522	486	490	458	311	327	349								
Western Europe				792	823	842	687	580	585	615								
Japan				137	92	114	81	73	84	77								
China				35	68	77	59	53	72	83								
Rest of the World				126	83	95	86	96	95	108								
Jewellery	625	560	505	476	422	422	372	331	298	356	293	20%	-18%	90	86	102	84	68
North America				3	3	3	3	3	3	3								
Western Europe				4	4	3	4	4	4	4								
Japan				187	162	160	165	136	107	111								
China				276	248	250	195	183	179	233								
Rest of the World				5	5	5	6	5	5	5								
Industrial	25	30	30	69	66	67	69	71	76	81	88	7%	8%	20	21	21	21	23
North America				15	12	12	13	12	15	18								
Western Europe				11	10	11	11	13	15	17								
Japan				34	34	34	34	34	34	33								
China				7	7	8	9	9	10	11								
Rest of the World				2	2	2	2	2	2	2								

出典：メタルズフォーカス社（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

PLATINUM QUARTERLY Q2 2026

表 7：供給、需要、地上在庫のまとめ ― 年間比較（5 ページ表 1 をトン表示に換算したもの）

	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q1 2026	Q2 2026
Platinum Supply-demand Balance (tonnes)									
SUPPLY									
Refined Production	172	174	180	173	173	-4%	0%	41	46
South Africa	122	123	129	123	125	-4%	1%	32	34
Zimbabwe	15	16	16	16	16	1%	-1%	3	5
North America	8	9	8	7	6	-20%	-5%	1	1
Russia	21	21	21	21	20	0%	-5%	4	5
Other	6	6	6	6	6	3%	-2%	1	1
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	1	0	0	0	0	-57%	-100%	+0	-1
Total Mining Supply	173	175	180	173	173	-4%	0%	42	45
Recycling	56	47	48	52	56	9%	8%	14	14
Autocatalyst	43	35	36	38	44	6%	15%	11	12
Jewellery	12	10	9	11	9	20%	-18%	3	2
Industrial	2	2	2	3	3	7%	8%	1	1
Total Supply	229	222	228	225	229	-1%	2%	56	59
DEMAND									
Automotive	86	100	97	95	90	-2%	-4%	23	23
Autocatalyst	86	100	97	95	90	-2%	-4%	23	23
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A	†	†
Jewellery	58	58	62	69	59	10%	-15%	14	14
Industrial	72	78	80	70	74	-12%	5%	18	19
Chemical	21	26	20	18	19	-13%	9%	4	4
Petroleum	6	5	5	6	4	14%	-28%	1	1
Electrical	3	3	3	3	4	6%	19%	1	1
Glass	15	15	23	13	16	-42%	23%	4	5
Medical	9	9	10	10	10	4%	4%	2	3
Hydrogen Stationary and Other	0	1	1	2	2	77%	8%	1	1
Other	18	19	19	19	18	0%	-2%	5	4
Investment	-16	12	22	36	-3	62%	N/A	-8	-4
Change in Bars, Coins	8	10	6	12	10	96%	-22%	3	1
China Bars ≥ 500g	3	4	5	5	3	2%	-36%	1	1
Change in ETF Holdings	-17	-2	9	6	-12	-32%	N/A	-9	-7
Change in Stocks Held by Exchanges	-10	0	2	12	-3	>±300%	N/A	-4	2
Total Demand	201	247	262	270	220	3%	-18%	46	52
Balance	28	-25	-34	-45	8	N/A	N/A	9	8
Above Ground Stocks	158**	133	99	54	63	-45%	15%		

出典: メタルズフォーカス（2022年から2026年予測）

注:

1. 地上在庫：***113.5トン 2018年12月31日時点（メタルズフォーカス）
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPIC は2013年、および2014年第1四半期および同年第2四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2022年第2四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはWPICウェブサイトを参照（無料）。
5. 2024年第3四半期以降の四半期予測と2024年上半年期以降の6ヶ月予測は、20ページの表3と21ページの表4にそれぞれ含まれている(供給、需要、地上在庫)。
6. 23ページの表6の地域毎のリサイクル供給の詳細データは2019年からのものによる。

用語集

Above ground stocks 地上在庫

年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所所有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社のしかかり・加工在庫ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量。通常は供給で賄えない需要を容易に補充できる、あるいは過剰な供給分を即座に流通させられる、保管庫にある未公表のメタルをいう。

ADH アルカン脱水素化

飽和炭化水素であるアルカンから触媒などによって不飽和炭化水素であるアルケンを生成する化学反応で、ブタン脱水素(BDH)とプロパン脱水素(PDH)がある。

BDH ブタン脱水素

触媒を使ってイソブタンからイソブチレンを生成する化学反応。

BEV バッテリー電気自動車

充電できるバッテリーを利用する電気モーターを推進力として利用する電気自動車。

Bharat バラート（排出基準）

インド政府が、エンジン車及び点火式エンジンから排出される大気汚染物質を軽減・規制するために導入した排ガス基準（BSES）。

Bharat Stage VI standard (BS-V, BS-VI) バラートステージ V, VII 基準
バラートステージ VI 基準は「Euro 6」に準じ、2018年から2020年にかけて導入された。

Catalysed vehicle 触媒装置付き自動車

触媒装置付き自動車とは排気システムに触媒コンバーターを備えた自動車で、一酸化炭素(CO)、窒素酸化物(NO_x)、炭化水素(HC)などの有害物質を、触媒装置の中で二酸化炭素(CO₂)、窒素(N₂)、水蒸気(H₂O)など、より害の少ないカスに転換して排出する。化石燃料を燃焼する純粋なエンジン車及びハイブリッド車の両方が触媒装置を搭載する。

China Bars ≥ 500g 中国の500グラム以上のインゴット

中国で売られる500グラム以上の大型のインゴットのネットベースの需要で、実需ユーザーが購入したインゴットは含まない。

China Vehicle Emission Standards 中国の排ガス基準

中国の排ガス基準は国レベルでは生態環境部が、地方レベルでは環境保護局の管轄となる。中国の多くの都市や省では新しい基準を先行して導入することが多い。

China 6 「国 6」（排出基準）

2016年12月に中国政府が全国の普通乗用車に対して定めた、それぞれ2020年7月（「国 6a」）と2023年7月（「国 6b」）から適応される排出基準。排気管から排出される排気ガスと燃料蒸発ガスの基準については「Euro 6」と米「Tier 2」基準に準じている。「国 6b」基準では、EU RDE 規制（「Euro 6d TEMP」）を基本に、改良と修正を加えた路上走行試験を義務化した。

China VI 「国 VI」（排出基準）

2023年7月よりディーゼルで走る大型輸送車に適用される排出基準。

Compounds (Platinum based) プラチナベースのコンパウンド

プラチナと他の物質を合わせ、特定の化学反応を促進するため、触媒、メッキ、金属3Dプリンティング、その他の製造過程に使われる。

Diesel oxidation catalyst (DOC) ディーゼル酸化触媒

ディーゼル燃料の不完全燃焼による有害な一酸化炭素や炭化水素を、無害な二酸化炭素と水に変換する触媒。

Diesel particulate filter (DPF) and catalysed diesel particulate filter (CDPF) ディーゼル微粒子フィルター、触媒被覆DPF

DPF はディーゼル排気ガス中のススを物理的に捕える装置で、CDPF は ススの酸化と除去を促進するために PGM 触媒をコーティングした装置。これらはしばしば同義語として用いられる。

Electrolysis of water 水の電解

水の電解装置は、電流を利用して水の分子を水素と酸素に分解する装置。電解を行う最小単位のデバイスであるセル、それを複数重ねたスタック、これらと周辺の機器を合わせたシステムからなる。

Emissions Legislation 排気ガス規制

一酸化炭素(CO)、粒子状物質(PM)、炭化水素、窒素酸化物(NO_x)など、車が排出する有害ガス処理を行う浄化触媒システムの搭載を義務化した規制で、地域や国ごとに異なる基準があり、最小排出目標値や適応期限が異なる。

EPA 環境保護庁

Environmental 米連邦政府の機関として米国の自動車排出ガス規制を管轄する。

EREV レンジエクステンダー式電気自動車

ガソリンエンジンを搭載するバッテリー電気自動車だが、エンジンはプラグインハイブリッド車のように車輪の駆動動力ではなく、航続距離を伸ばすためにバッテリーの充電用発電機として機能する。

ETF 上場投資信託

指数やコモディティ、資産バスケットに連動するように運用される投資信託の一種。プラチナ ETF は現物プラチナ 上昇している取引所が承認した保管庫にある(LPPM グッドデリバリーバー)が原資となっている。

Euro 6 emission standards Euro 6 排ガス規制

2014年から2015年にかけてEU圏で導入された普通乗用車が対象の排ガス規制。基準値は変わらないものの、現在は測定法がより厳格になった Euro 6 a、b、c、d、Euro 6d-Temp が使われている。CO₂ については試験室ベースの WLTP が、NO_x についてはRDEが導入されている。

Euro VI emission standards Euro VI 排ガス規制

2013年から2014年にかけてEU圏で導入された大型輸送車が対象の排ガス規制。のちに同様の基準値が他国に採用された。

Euro 7 emission standards Euro 7 排ガス規制

Euro 7 排ガス規制は、普通乗用車と小型商用車の排気ガスについては現行の Euro 6 基準値のままだが、粒子状物質の基準についてはより厳格化され、さらに走行距離と耐用年数においても強化される。2027年初頭から段階的に導入される予定。

Euro VII emission standards Euro VII 排ガス規制

Euro VII 排ガス規制は大型輸送車に対して、これまで規制されてこなかった亜酸化窒素(N₂O)を含む各種の有害物質についてより厳格な基準値を定めるとともに、耐用年数についても強化する。2027年初頭から段階的に導入される見込み。

FCM 燃料消費モニタリング

車両の使用期間中の実際の燃料消費を記録することで、「Euro 6d」排ガス規制では2020年1月1日以降に生産される全ての車、および2021年1月1日の全ての新規登録車に課される。

FCEV 燃料電池自動車

バッテリーの代わりに、水素を燃料とするプラチナを含む燃料電池で発電することで走行する電気自動車。

Forward price 渡価格

将来のある時点のコモディティの価格で、通常はスポット価格にリスクフリーの金利及び保有コストを含める。

GTL ガス・ツー・リキッド

天然ガスからガソリンやディーゼル燃料などの液体燃料を合成する技術。

HDD ハードディスクドラ

磁気ディスクを使ってデジタルデータを記憶させる装置。

HDV 重量車

米国の排ガス規制における車両区分。日本では大型トラックやバスに相当。

HEV ハイブリッド電気

ハイブリッド車に搭載されているエンジンは車輪を駆動するだけでなく、発電してバッテリーの充電に使うことも、回生ブレーキによってバッテリーに電力を蓄えることもできる。電気のための航続距離は通常数キロメートルにとどまる。

Hydrogen Production Methods 水素の生産方法

近年は異なる方法で生産された水素を色分けして区別するようになった。しかし、まだ国際的に承認された基準はなく、あくまでも参考呼称。以下の色分けはさまざまな生産方法を含めた一般的なもの。

ホワイト水素 – 天然水素あるいは産業製造過程の副産物として生じる水素

ブラック・ブラウン水素 – 石炭(ブラック)、褐炭(ブラウン)を原料にする水素

グレー水素 – 化石燃料の改質による水素

ターコイズ水素 – メタンの熱分解による水素

ブルー水素 – 化石燃料の改質と二酸化炭素回収を組み合わせる生産される水素

グリーン水素 – 再生可能エネルギーを使う水電解による水素

ピンク水素 – 原子力発電を使って生産される水素

ICE 内燃機関

燃料を燃焼させることで機械の動力源とする熱機関

IoT モノのインターネット

あらゆるモノがインターネットを通じて相互に通信する仕組み。

ISC サービス稼働適合性

自動車の排ガス基準に対する適合を実際の走行条件下でも確認する評価。

Jewellery alloys 宝飾品の合金

プラチナ宝飾品の純度は常に千分率で表される。例えば最も一般的なpt950とは、金属の95%が純プラチナで、残りはコバルトや銅など他の金属が使われていることを意味する。プラチナ宝飾品としての認定や刻印をするための純度の基準は通常各市場で決められている。

Jewellery demand 宝飾品の需要

未加工のプラチナが半製品あるいは完成品の宝飾品に初めて転換された段階の需要。

Koz トロイオンス

1 kozは1000トロイオンス、1トロイオンスは約31.1キログラム。

LCD 液晶ディスプレイ

2枚のガラスあるいはプラスチック層の間に液晶を挟み込み、電界によって光の透過を制御する平面のパネルディスプレイ。

LDV 軽量車両

米国の排ガス規制における車両区分。日本では普通乗用車と小型商用車にほぼ相当する。

NEDC New European Driving Cycle

国連欧州経済委員会(UNECE)が管理する国連車両規則101号に定められ、欧州で乗用車の排出ガス量や燃料評価に用いるテストサイクルで、随時更新され、より厳格なWLTPに置き換えられた。

Net demand ネットの需要

リサイクルで回収される供給を差し引きしたネットの新たな需要。

Non-road engines 非道路移動機械用エンジン

建設現場や農場、鉱山の採掘現場の車両に使われるディーゼルエンジンでエンジンの構造や排ガス制御技術は、一般道を走行するディーゼル大型輸送車と似ている。

Ounce conversion オンスとトン・キロ

1 トンは1000キログラム、32.151 トロイオンス。

Oz トロイオンス

貴金属に通常使われる重量の単位で1トロイオンスは31.103グラム。

PDH プロパン脱水素

プロパンからプロピレンを製造するプロセス。

PEM Electrolyser Technology 固体高分子型水電解技術

水電解技術の主な4つの技術の一つで、酸素極(アノード)の電極には酸化イリジウム、水素極(カソード)の電極にはプラチナが使われる。輸送層にはプラチナがコーティングされた焼結多孔質チタン、双極板にもプラチナが使われる。

PGMs 白金族金

ルテニウム(Ru)、ロジウム(Rh)、パラジウム(Pd)、オスミウム(Os)、イリジウム(Ir)、プラチナ(Pt)の6つの元素の総称。[訳者加筆]

PHEV プラグインハイブリッド電気自動車

外部電源に接続して充電できるバッテリーと、車輪を直接駆動あるいはバッテリーも充電できるエンジンを搭載する。電気のための航続距離は通常30キロから80キロ。

PMR 貴金属精錬所

鉱石やスクラップから貴金属を取り出して純度を高める施設[訳者加筆]。

Pricing benchmarks 指標価格

流動性の高い市場で取引されるコモディティの価格で、買い手と売り手の参考基準となる。プラチナの場合は、通常、ロンドン金属取引所(LME)が公表する、オークション方式によるLBMAプラチナ価格。

Producer inventory 生産者在庫

需給バランスにおいて、生産者在庫の変化は精錬メタル生産と販売したメタルの差となる。

PX パラキシレン

原油から得られる石油ナフサを、プラチナ触媒を使って転化させて得られる化学物質。パラキシレンはポリエステル製の製造に利用するテレフタル酸の生産に用いられる。

Refined production 精錬生産

精錬所では、最低でも純度 99.95% のプラチナのインゴット、スポンジ、粒子を生産する。

RDE 実走行排出試験

走行中の車両が排出する NO_x などの有害物質を測定し、試験室での検査に加えて実施される試験。2017年9月から新型車に対して導入され、2019年9月からは全ての登録車に対しても課されている。

Secondary supply リサイクル供給

未使用の在庫も含むプラチナを使った製品を回収して取り出されたプラチナは供給の一部として扱われるが、製造過程で発生する生産スクラップは含まない。自動車触媒及び宝飾品のリサイクルはスクラップが出た国での統計となり、実際にプラチナの精錬が行われる国とは異なる場合がある。

Selective catalytic reduction (SCR) 選択式還元触媒

ディーゼルエンジンの排気流に液体還元剤(尿素)を噴射する排気ガス制御技術で、使用する尿素は AdBlue という商品名で知られる。通常 SCR ユニットと、プラチナを含むディーゼル酸化触媒(DOC)を汎用する。

SGE 上海黄金交易所

2002年設立の中国唯一の公式貴金属取引所。[訳者加筆]

SSD ソリッドステートドライブ

メモリチップを用いるデータ記憶装置でフラッシュメモリを利用する。

Stage 4 regulations ステージ4 規制

非道路移動機械(Non-road mobile machinery : NRMM) はステージ1からステージ5まで段階的に厳格になる規定が設けられている。2018年5月に見直され、2020年、2021年に向けた期限が設定された。業界団体による施行延期要請についてはまだ未定。[米国のEPAが定める排ガス規制 (訳者加筆)]

Three-way catalyst 三元触媒

ガソリン車において炭化水素、一酸化炭素、窒素酸化物を除去するために用いられる。パラジウムが主体の触媒だが、代替として一部プラチナが使われるようになっており、またロジウムも使われる。

Tri-metallic catalyst トリメタル触媒

自動車の排ガス制御において、3種類の白金族金属であるプラチナ(Pt)、パラジウム(Pd)、ロジウム(Rh)を組み合わせた浄化触媒装置。

US Vehicle Emission Standards 米国の排ガス基準

米国の自動車およびエンジンに対する排ガス規制は「Clean Air Act (CAA)」に基づき、環境保護庁(EPA)の管轄下にある。カリフォルニア州は独自の排ガス規制を導入する権利を有し、同州のEPA下にあるカリフォルニア州大気資源局(CARB)がエンジン及び車両の排ガス規制を策定する。車両は毎年「bin」と呼ばれる異なる排出クラスに認証され、フリート全体の平均排出量が規制の対象となる。

Tier 3 Tier3 規制

米EPAによる排ガス規制で2025年までの共通目標を定めた。2017年～2025年式車を対象とし、カリフォルニア州基準と合致[訳者加筆]。

Tier 4 stage Tier4 ステージ規制

EUにおける非道路移動機械の排ガス規制はステージ1からステージ5まで段階的に厳格になる規定が設けられている。2018年5月に見直され、2020年、2021年に向けた期限が設定された。業界団体による施行延期要請についてはまだ未定。

Washcoat ウォッシュコート層

自動車触媒装置のブロックあるいは部材内部に、セラミックなどの不活性基材の上にコーティングされる層でプラチナなどの活性触媒を含む。

WIP しかかり在庫あるいは加工在庫

生産者において製錬及び精錬過程にある段階の未完成の製品在庫 [訳者加筆]

WLTP 乗用車などの国際調和燃費・排出ガス試験方法

有害物質の排出量及び燃料消費量を測定するための試験室検査で、EUでは2017年9月より新型車に、2018年9月よりNEDCに代わる方法として導入された。日本では2016年10月より導入 [訳者加筆]

WPIC ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル

免責条項: 当出版物は一般的なもので、唯一の目的は知識を提供することである。当出版物の発行者、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルは、世界の主要なプラチナ生産会社によってプラチナ投資需要発展のために設立されたものであるその使命は、それによって行動を起こすことができるような見識と投資家向けの商品開発を通じて現物プラチナに対する投資需要を喚起すること、プラチナ投資家の判断材料となりうる信頼性の高い情報を提供すること、そして金融機関と市場参加者らと協力して投資家が必要とする商品や情報ルートを提供することである。

当出版物に掲載された2019年からメタルズフォーカス社によるリサーチは© Metals Focus Copyrightが著作権を有するものである。当出版物に掲載されたデータの全ての著作権およびその他の知的財産権はメタルズフォーカス社に属し、発行者への第三者コンテンツ提供者である同社のみがその情報及びデータの中の知的財産権の登録をする権利がある。メタルズフォーカス社の分析、データ、その他の関連情報は掲載時点でのメタルズフォーカス社の判断を表したものであり、予告なく変更されることがある。当該データ及び解説のいかなる部分もメタルズフォーカス社の書面による承諾なしに資本市場（資金調達）のために使用することはできない。

当出版物に掲載された2019年以前のSFA社によるリサーチは© SFA Copyrightが著作権を有するものである。

当出版物は有価証券の売買を提案または勧誘するものではなく、またそのような提案または勧誘とみなされるべきものでもない。当出版物によって、出版者およびコンテンツ提供者は、それが明示されているか示唆されているかにかかわらず、有価証券あるいは商品取引の注文を発注、手配、助言、仲介、奨励する意図はない。当出版物は税務、法務、投資に関する助言を提案する意図はなく、当出版物のいかなる部分も投資商品及び有価証券の購入及び売却、投資戦略あるいは取引を推薦するものとみなされるべきでない。発行者、コンテンツ提供者はブローカー・ディーラーでも、また2000年金融サービス市場法、Senior Managers and Certifications Regime及び金融行動監視機構を含むアメリカ合衆国及びイギリス連邦の法律に登録された投資アドバイザーでもなく、及びそのようなものと称していることもない。

当出版物は特定の投資家を対象とした、あるいは特定の投資家のための専有的な投資アドバイスではなく、またそのようなものとみなされるべきではない。どのような投資も専門の投資アドバイザーに助言を求めた上でなされるべきである。いかなる投資、投資戦略、あるいは関連した取引もそれが適切であるかどうかの判断は個人の投資目的、経済的環境、及びリスク許容度に基づいて個々人の責任でなされるべきである。具体的なビジネス、法務、税務上の状況に関してはビジネス、法務、税務及び会計アドバイザーに助言を求めるべきである。

当出版物は信頼できる情報に基づいているが、出版者とコンテンツ提供者が、情報の正確性及び完全性を保証するものではない。当出版物は業界の継続的な成長予測に関する供述を含む、将来の予測に言及している。出版者とメタルズフォーカス社は当出版物に含まれる、過去の情報以外の全ての予測は、実際の結果に影響を与えるリスクと不確定要素を伴うことを認識しているが、出版者とコンテンツ提供者は、当出版物の情報に起因して生じるいかなる損失あるいは損害に関して、一切の責任を負わないものとする。

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルのロゴ、商標、及びトレードマークは全てワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルに帰属する。当出版物に掲載されているその他の商標はそれぞれの商標登録者に帰属する。発行者は明記されていない限り商標登録者とは一切提携、連結、関連しておらず、また明記されていない限り商標登録者から支援や承認を受けていることはなく、また商標登録者によって設立されたものではない。発行者によって非当事者商標に対するいかなる権利の請求も行われない。

© 2026 World Platinum Investment Council Limited. 禁無断転載。ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの名称、ロゴ、及び略称WPICはワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの登録商標である。当出版物のいかなる部分もワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルおよび著者の許可なくして、いかなる方法によっても複製および配布されてはならない。